

T-file

2022 資料集

2月1日
「午前入試」を
導入

東京都市大学付属中学校・高等学校
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

刊 行 に あ た っ て

2009年、東京都市大学グループの発足に伴い、校名を武蔵工業大学附属から東京都市大学附属に改め、中高完全一貫の男子校として、勉強にもクラブ活動にも全力で取り組む生徒を育成しています。東京都市大学の附属校でありながら、難関大学を目指した教育プログラムにより、大学合格実績を着実に伸ばしています。これからの大学入試では、従来から求められていた「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って学ぶ姿勢」も問われます。本校では3年間で60テーマに及ぶ科学実験のレポート作成や、社会人OBが100%バックアップするキャリア・スタディ、高校1年生全員が執筆する4000文字以上の中期修了論文など、伝統的に行ってきたプログラムにより、新しい大学入試制度が求めている力を育てています。

この資料集 T-file は、説明会や個別相談でお寄せいただいたご要望やご質問をもとに、入試結果や学校生活、進路指導など、さまざまな視点から編集いたしました。受験生や保護者の方が知りたい情報満載の資料集になっていれば幸いです。

東京都市大学附属中学校・高等学校は「BE THE NEXT ONE」を合言葉に、自己の実現とともに社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育てることで、次世代に夢を託してまいります。

目 次

1. 中学一般入試結果概要（3年間比較）	1
2. 第1回 2月1日午後 入試結果	2
3. 第2回 2月2日 入試結果	2
4. 第3回 2月4日 入試結果	3
5. 第4回 2月6日 入試結果	3
6. 帰国生入試結果概要（3年間比較） 入試結果・アンケート結果	4
7. グローバル入試 2月2日 入試結果	7
8. 2022年度入試 主要模試結果偏差値（80%）	8
9. 2月1日午後受験生の午前の受験校	9
10. 入学者の第1志望校・併願校（新入生保護者のアンケートより）	9
11. 受験志望の動機など（新入生保護者のアンケートより）	10
12. 2021年度 通学地域集計表	11
13. 校納金等一覧（2022年度）	12
14. 2022年度 中学校使用教科書・副教材一覧	13
15. 夏期・冬期・春期講習 開講講座（学年別）	14
16. 高2 ベネッセ模試 結果 2022年1月実施	15
17. 中学生検定取得率	15
18. 2021年度 クラブ所属部員数（中学・高校）	16
19. 2021年度 クラブ活動・教科活動主要実績一覧	17
20. 2022年度 大学合格実績一覧	18
21. 2021年度 指定校推薦主要大学	19
22. 2022年度 学校説明会・行事日程	20
23. 2023年度 中学入学試験要項（概要）	20
24. 2022年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度	21

1. 中学一般入試結果概要 (3年間比較)

Point!

12年連続 都内男子校志願者 No.1

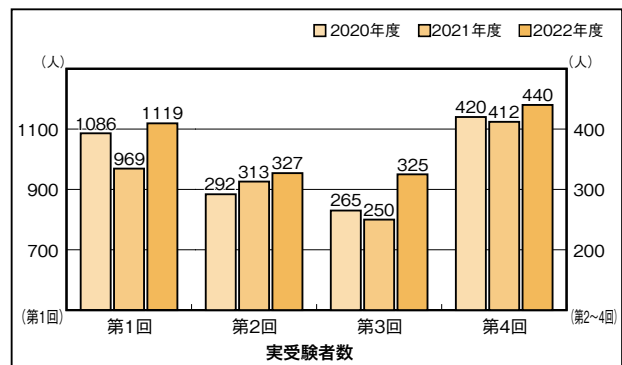
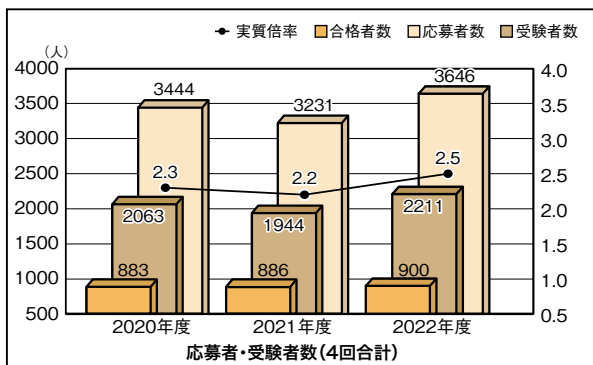
一般入試では、倍率は2.5倍となり、応募者数、受験者数、合格者数いずれも3年間で最高となりました。四模試の動向や採点状況から受験生全体の学力が高いと考え、類別の合格者の内訳は、Ⅱ類345名(昨年比56名増)、Ⅰ類555名(昨年比42名減)とし、Ⅱ類の比率をやや高くしました。

日 程	2月1日			2月2日			2月4日			2月6日			合 計								
	定員(Ⅰ類・Ⅱ類合計)	120			60			30			30			240							
志 望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計						
応 募 者 数	701	541	1242	311	297	608	401	379	780	506	510	1016	1919	1727	3646						
受 験 者 数	634	485	1119	165	162	327	147	178	325	172	268	440	1118	1093	2211						
受 験 率	90.1%			53.8%			41.7%			43.3%			60.6%								
正 規 合 格 者 数	Ⅱ類	Ⅰ類	201 * (67)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	38 * (9)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	34 * (6)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	28 * (3)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	301 * (85)	計	
	187	233			28	50			22	29			18	32			255	344			
実 質 倍 率	1.5倍	2.4倍	1.8倍		2.1倍	4.3倍	2.8倍		2.9倍	5.2倍	3.8倍		3.4倍	9.6倍	5.6倍		1.9倍	3.6倍	2.5倍		
入 学 者 数	83			38			43			50			214								
合格最低点(得点率)	Ⅱ類	2科143・4科213(71.0%)			240(68.6%)			221(63.1%)			237(67.7%)			255(71.7%)			196(56.2%)			355(81.1%)	
	Ⅰ類	2科123・4科180(60.0%)			218(62.3%)			201(57.4%)			220(62.9%)			196(56.2%)			196(56.2%)			355(81.1%)	

日 程	2月1日			2月2日			2月4日			2月6日			合 計								
	定員(Ⅰ類・Ⅱ類合計)	120			60			30			30			240							
志 望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計						
応 募 者 数	531	559	1090	238	310	548	323	356	679	400	514	914	1492	1739	3231						
受 験 者 数	477	492	969	134	179	313	98	152	250	138	274	412	847	1097	1944						
受 験 率	88.9%			57.1%			36.8%			45.1%			60.2%								
正 規 合 格 者 数	Ⅱ類	Ⅰ類	242 * (68)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	43 * (11)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	30 * (7)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	40 * (7)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	355 * (93)	計	
	143	207			20	56			14	36			19	36			196	335			
実 質 倍 率	1.4倍	2.0倍	1.6倍		1.8倍	4.2倍	2.6倍		2.0倍	5.1倍	3.1倍		2.5倍	6.9倍	4.3倍		1.6倍	3.1倍	2.2倍		
入 学 者 数	100			32			35			42			209								
合格最低点(得点率)	Ⅱ類	2科145・4科215(71.7%)			253(72.3%)			256(73.1%)			268(76.6%)			196(56.2%)			196(56.2%)			355(81.1%)	
	Ⅰ類	2科123・4科183(61.0%)			215(61.4%)			228(65.1%)			244(69.7%)			196(56.2%)			196(56.2%)			355(81.1%)	

日 程	2月1日			2月2日			2月4日			2月6日			合 計								
	定員(Ⅰ類・Ⅱ類合計)	120			60			30			30			240							
志 望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計						
応 募 者 数	613	575	1188	266	312	578	346	365	711	436	531	967	1661	1783	3444						
受 験 者 数	559	527	1086	130	162	292	125	140	265	160	260	420	974	1089	2063						
受 験 率	91.4%			50.5%			37.3%			43.4%			59.0%								
正 規 合 格 者 数	Ⅱ類	Ⅰ類	217 * (56)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	46 * (8)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	29 * (7)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	35 * (7)	計	Ⅱ類	Ⅰ類	327 * (78)	計	
	147	235			15	49			16	38			18	38			196	360			
実 質 倍 率	1.5倍	2.4倍	1.8倍		2.0倍	3.5倍	2.7倍		2.3倍	4.8倍	3.2倍		2.9倍	7.4倍	4.6倍		1.8倍	3.3倍	2.3倍		
入 学 者 数	92			27			41			54			214								
合格最低点(得点率)	Ⅱ類	2科140・4科212(70.7%)			267(76.3%)			263(75.1%)			250(71.4%)			196(56.2%)			196(56.2%)			327(78.0%)	
	Ⅰ類	2科120・4科185(61.7%)			237(67.7%)			241(68.9%)			227(64.9%)			196(56.2%)			196(56.2%)			327(78.0%)	

*正規合格者数の()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。



2. 第1回 2月1日午後 (4科 15時集合 15時10分試験開始 17時55分試験終了 インターネット発表23時～) 2科 16時集合 16時10分試験開始

1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数		
約120	2科	Ⅱ類	165	Ⅱ類	156	Ⅱ類	94.5%	Ⅱ類	Ⅱ類：69(Ⅰ類：46)	Ⅱ類	1.4倍	Ⅱ類	6
		Ⅰ類	102	Ⅰ類	98	Ⅰ類	96.1%	Ⅰ類	37(16)	Ⅰ類	2.6倍	Ⅰ類	9
	4科	Ⅱ類	533	Ⅱ類	475	Ⅱ類	89.1%	Ⅱ類	Ⅱ類：118(Ⅰ類：187)	Ⅱ類	1.6倍	Ⅱ類	21
		Ⅰ類	442	Ⅰ類	390	Ⅰ類	88.2%	Ⅰ類	Ⅰ類：164(51)	Ⅰ類	2.4倍	Ⅰ類	47
	計	1242	計	1119	計	90.1%	計	469	計	1.8倍	計	83	

*正規合格者数Ⅰ類の()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。
*第1回入試の2教科型で、応募者数よりも受験者数が上回っているのは、試験当日に受験型の変更を認めているからです。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

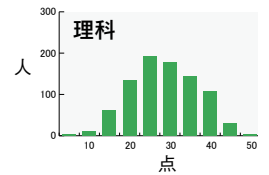
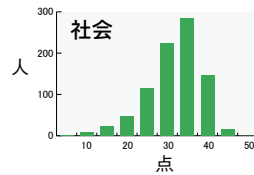
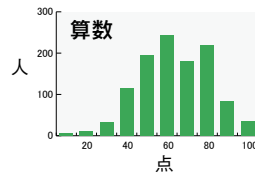
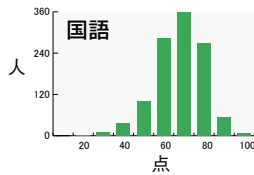
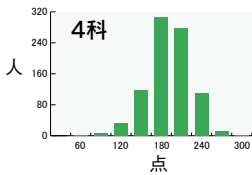
		2科・4科		国語	算数	社会	理科
試験時間(分)				45	45	45	
配点		300		100	100	50	50
平均点	受験生	Ⅱ類	2科128.7 / 4科185.0	65.4	63.3	30.8	28.0
		Ⅰ類	2科114.5 / 4科167.8	60.7	53.9	28.5	24.7
	合格者	Ⅱ類	2科153.6 / 4科217.8	74.2	79.3	32.9	32.8
		Ⅰ類	2科129.7 / 4科188.4	66.3	64.1	31.2	28.8
最高点	合格者	Ⅱ類	2科187 / 4科272	98	100	43	48
	合格者	Ⅰ類	2科142 / 4科212	84	95	42	44
最低点	合格者	Ⅱ類	2科143 / 4科213				
	合格者	Ⅰ類	2科123 / 4科180				

Point!

慎重だった午後入試の受験

2月1日午後入試の受験率は90.1%で昨年(88.9%)よりも高くなりましたが、コロナ以前(2020年度入試以前)に比べると低くなっています。これは、出願はしたが午前中の試験の状況を見て、無理をせずに午後受験を回避した受験生や、他校とダブル出願していた受験生が多くなったためではないかと思われます。

3. 教科別得点分布



3. 第2回 2月2日 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表18時～)

1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
約60	Ⅱ類	311	Ⅱ類	165	Ⅱ類	53.1%	Ⅱ類	Ⅱ類：28(Ⅰ類：50)	Ⅱ類	2.1倍	Ⅱ類	11
	Ⅰ類	297	Ⅰ類	162	Ⅰ類	54.5%	Ⅰ類	Ⅰ類：38(9)	Ⅰ類	4.3倍	Ⅰ類	27
	計	608	計	327	計	53.8%	計	116	計	2.8倍	計	38

*正規合格者数Ⅰ類の()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

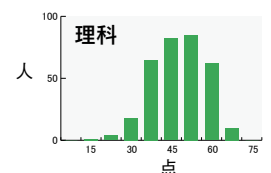
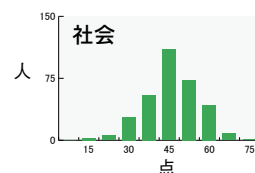
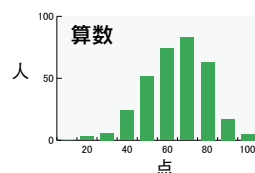
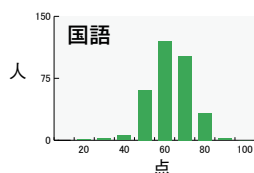
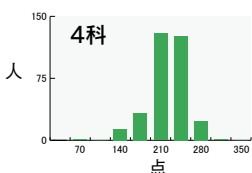
		4科		国語	算数	社会	理科
試験時間(分)				50	50	40	40
配点		350		100	100	75	75
平均点	受験生	Ⅱ類	214.1	59.5	64.3	44.0	46.4
		Ⅰ類	195.7	57.2	55.9	40.8	41.7
	合格者	Ⅱ類	254.2	68.2	78.2	51.7	56.1
		Ⅰ類	225.9	62.2	67.4	47.3	49.3
最高点	合格者	Ⅱ類	301	82	100	68	66
	合格者	Ⅰ類	239	85	89	64	65
最低点	合格者	Ⅱ類	240				
	合格者	Ⅰ類	218				

Point!

模試の見通しより受験生が増加

12月の四模試の志望者動向では、第2～4回入試の応募者数は、前年並みまたは微減と予測されていました。しかし実際は、応募者数、受験者数ともすべての回で増加しました。とくに第3回以降の受験状況は、それ以前の入試結果により変化しますので、模試に基づく予測とは異なる結果になる場合があります。

3. 教科別得点分布



4. 第3回 2月4日 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表18時～)

1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
	Ⅱ類	401	Ⅱ類	147	Ⅱ類	36.7%	Ⅱ類	Ⅱ類：22(Ⅰ類：29)	Ⅱ類	2.9倍	Ⅱ類	16
約30	Ⅰ類	379	Ⅰ類	178	Ⅰ類	47.0%	Ⅰ類	Ⅰ類：34(6)	Ⅰ類	5.2倍	Ⅰ類	27
	計	780	計	325	計	41.7%	計	85	計	3.8倍	計	43

*正規合格者数Ⅰ類の()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

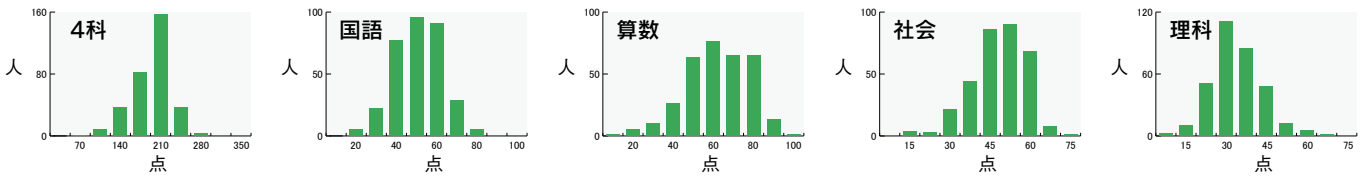
		4科	国語	算数	社会	理科	
試験時間(分)			50	50	40	40	
配点		350	100	100	75	75	
平均点	受験生	Ⅱ類	186.8	48.0	60.6	46.0	32.2
		Ⅰ類	172.7	44.9	55.2	43.9	28.7
	合格者	Ⅱ類	231.1	60.1	75.1	53.8	42.1
		Ⅰ類	203.9	51.6	68.5	50.2	35.6
最高点	合格者	Ⅱ類	263	77	94	70	61
	合格者	Ⅰ類	218	69	88	65	55
最低点	合格者	Ⅱ類	221				
	合格者	Ⅰ類	201				

Point!

理科で読解力や思考力を問う

読解力や思考力を必要とする問題が増えた理科は、第3回、第4回入試で平均点がやや低めとなりました。今後も単なる知識を問う問題だけでなくこのようなタイプの問題を作成していきたいと考えています。

3. 教科別得点分布



5. 第4回 2月6日 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表18時～)

1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
	Ⅱ類	506	Ⅱ類	172	Ⅱ類	34.0%	Ⅱ類	Ⅱ類：18(Ⅰ類：32)	Ⅱ類	3.4倍	Ⅱ類	19
約30	Ⅰ類	510	Ⅰ類	268	Ⅰ類	52.5%	Ⅰ類	Ⅰ類：28(3)	Ⅰ類	9.6倍	Ⅰ類	31
	計	1016	計	440	計	43.3%	計	78	計	5.6倍	計	50

*正規合格者数Ⅰ類の()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

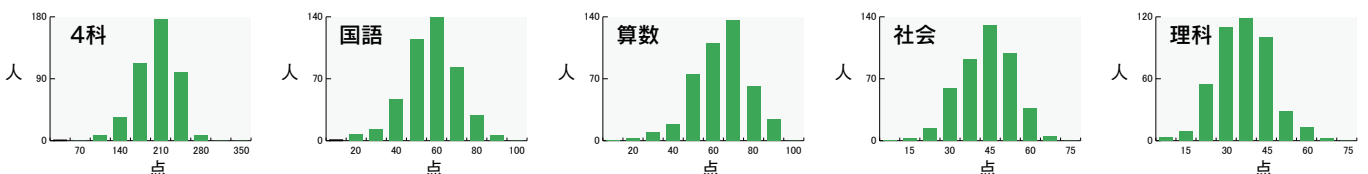
		4科	国語	算数	社会	理科	
試験時間(分)			50	50	40	40	
配点		350	100	100	75	75	
平均点	受験生	Ⅱ類	199.7	56.4	63.9	42.9	36.5
		Ⅰ類	176.3	50.1	56.8	38.5	31.0
	合格者	Ⅱ類	246.2	65.8	77.2	52.8	49.2
		Ⅰ類	221.3	63.4	71.5	46.3	42.8
最高点	合格者	Ⅱ類	271	89	88	65	62
	合格者	Ⅰ類	236	82	88	59	59
最低点	合格者	Ⅱ類	237				
	合格者	Ⅰ類	220				

Point!

社会も出題を難化

昨年まで平均点が7割前後だった社会はやや難易度を高めたため、平均点は6割弱となりました。答案からは、受験生全体の学力のアップが伺え、倍率が高くなったことから、受験生にとっては厳しい入試になったものと思われます。

3. 教科別得点分布



6. 帰国生入試結果概要(3年間比較) 1月6日 (8時30分集合 8時40分試験開始 インターネット発表1月6日 18時)

Point!

9年目を迎えた帰国生入試

9年目を迎えた帰国生入試の志願者は過去2番目を数え、今年は280名が志願、276名が受験しました。合格者は151名で、実質倍率は昨年をやや上回り1.8倍となりました。英語(英検準1級レベルの出題)を利用するA方式の受験生は101名を数え、大変英語力の高い受験生が志願していたことが分かります。

1. 入試結果

2022年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
志望	国語型			作文型			2教科			4教科			合計							
志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計					
応募者数	56	35	91	3	7	10	18	15	33	114	32	146	191	89	280					
受験者数	56	34	90	3	7	10	18	15	33	111	32	143	188	88	276					
合格者数	Ⅱ類	I類	21※ (3)	60	Ⅱ類	I類	1※ (0)	1	Ⅱ類	I類	3※ (1)	10	Ⅱ類	I類	8※ (2)	80	Ⅱ類	I類	33※ (6)	151
	10	29			0	0			2	5			21	51			33	85		
	39			0				7				72				118				
実質倍率	1.4	1.6	1.5	—	7.0	10.0	2.6	5.0	3.3	1.5	4.0	1.8	1.6	2.7	1.8					
入学者数	3	21	24	0	1	1	0	3	3	3	3	16	19	6	41	47				
2021年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
志望	国語型			作文型			2教科			4教科			合計							
志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計					
応募者数	45	59	104	1	4	5	10	15	25	100	34	134	156	112	268					
受験者数	42	59	101	1	4	5	10	14	24	100	32	132	153	109	262					
合格者数	Ⅱ類	I類	18※ (0)	50	Ⅱ類	I類	1※ (0)	2	Ⅱ類	I類	2※ (0)	7	Ⅱ類	I類	14※ (2)	99	Ⅱ類	I類	35※ (2)	158
	13	19			1	0			0	5			36	49			50	73		
	32			1				5				85				123				
実質倍率	1.3	3.3	2.0	1.0	4.0	2.5	2.0	7.0	3.4	1.2	2.3	1.3	1.2	3.1	1.7					
入学者数	6	8	14	1	0	1	2	0	2	15	3	18	24	11	35					
2020年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
志望	国語型			作文型			2教科			4教科			合計							
志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計					
応募者数	41	47	88	4	9	13	24	16	40	101	41	142	170	113	283					
受験者数	39	45	84	3	9	12	23	16	39	96	40	136	161	110	271					
合格者数	Ⅱ類	I類	21※ (3)	48	Ⅱ類	I類	2※ (0)	2	Ⅱ類	I類	3※ (0)	19	Ⅱ類	I類	11※ (1)	82	Ⅱ類	I類	37※ (4)	151
	6	21			0	0			2	14			11	60			19	95		
	27			0				16				71				114				
実質倍率	1.4	2.1	1.8	—	4.5	6.0	1.4	5.3	2.1	1.4	3.6	1.7	1.4	3.0	1.8					
入学者数	6	10	16	0	1	1	1	1	2	4	2	6	11	14	25					

※()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

6. 帰国生入試結果(概要) 1月6日 (8時30分集合 8時40分試験開始 インターネット発表1月6日 18時)

受験生の試験方法の割合

	A方式 国語	A方式 作文	B方式 2科	B方式 4科
応募者	32.5%	3.6%	11.8%	52.1%
合格者	39.7%	0.7%	6.6%	53.0%
入学者	50.0%	3.3%	8.3%	38.3%

※「入学者」については、他の受験型に再チャレンジで合格した後、入学した者を含みます。

Point!

英語を入試科目とするA方式の受験生が36.1%

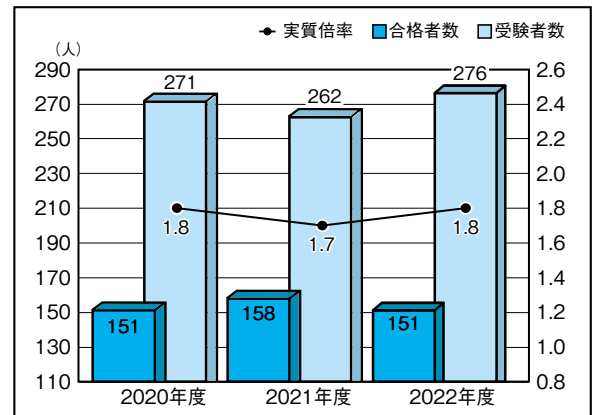
帰国生入試の英語の出題は英検準1級レベル。その試験に101名(36.1%)の受験生がチャレンジしました。また、入学者の割合は、A方式・53.3%、B方式・46.7%となり、例年に比べA方式での入学者の割合が高くなりました。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点

配点と時間

A方式			B方式		
試験科目	配点	時間	試験科目	配点	時間
国語	100点	45分	国語	100点	45分
算数	100点	45分	算数	100点	45分
英語	100点	45分	社会	50点	45分
作文	—	45分	理科	50点	
2科合計	200点	—	2科合計	200点	—
			4科合計	300点	—

3. 受験者数、合格者数、実質倍率の推移



各科目平均点

A方式				B方式			
試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	I類合格者	試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	49.1	53.8	52.2	国語	55.2	70.3	60.4
算数	58.0	90.8	62.0	算数	63.8	89.8	72.3
英語	53.9	72.4	64.3	社会	31.3	37.2	33.8
				理科	28.4	37.0	29.7

合格者最高点

A方式			B方式		
試験科目	Ⅱ類合格者	I類合格者	試験科目	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	72	76	国語	87	84
算数	100	88	算数	100	95
英語	89	89	社会	46	48
2科合計(国・算)	164	146	理科	48	40
2科合計(英・算)	187	155	2科合計	178	149
			4科合計	264	222

(注1) I類合格者の各データは、Ⅱ類出願者のスライド合格者を含みます。

(注2) B方式の2科合計最高点は、4科受験者も含みます。

(注3) 帰国生入試の合格最低点を発表していないのは、試験(国・算・社・理・英)の得点だけでなく、所持している資格や活動歴、作文などを加えて総合的に判定しているためです。

6. 帰国生入試 滞在国・滞在年数・帰国後年数・海外最終在籍校

滞在国 *なお、複数の国に滞在していた受験生あり。また、入学者には、再チャレンジ(帰国生入試以外)での合格者を含む。

滞在国	滞在国			滞在国	滞在国			滞在国	滞在国		
	応募者	合格者	入学者		応募者	合格者	入学者		応募者	合格者	入学者
アメリカ	68	36	18	カナダ	5	3	0	オマーン	1	1	1
イギリス	44	29	14	オーストラリア	5	2	2	ガーナ	1	1	0
シンガポール	40	21	11	ベトナム	4	3	1	ネパール	1	1	0
中国	27	14	3	ブラジル	4	3	0	トルコ	1	0	0
タイ	16	11	5	ミャンマー	4	3	0	デンマーク	1	0	0
香港	14	10	3	韓国	4	1	0	オーストリア	1	0	0
ドイツ	11	4	0	メキシコ	4	0	0	ポーランド	1	0	0
マレーシア	9	3	1	インド	3	1	1	バーレーン	1	0	0
台湾	8	5	2	ロシア	2	2	1	アルゼンチン	1	0	0
フランス	6	4	0	オランダ	2	2	1	ニュージーランド	1	0	0
ベルギー	6	3	2	イタリア	2	1	2				
インドネシア	6	3	0	アラブ首長国連邦	2	1	0				

Point!

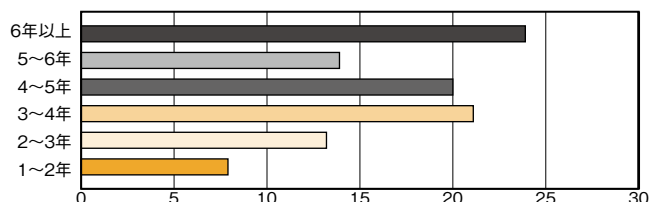
滞在国は9年連続してアメリカがトップ

滞在国は帰国生入試を開始して以来、連続してアメリカがトップです。また、ここ数年、中国からの志願者が減少する傾向です。受験生の多い滞在国は例年ほぼ変化はありませんが、今年も地域を問わず世界中から志願者が集まっています。

滞在年数

	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～6年	6年以上
応募者	22	37	59	56	39	67
合格者	9	22	32	30	22	36
入学者	3	8	12	12	9	16

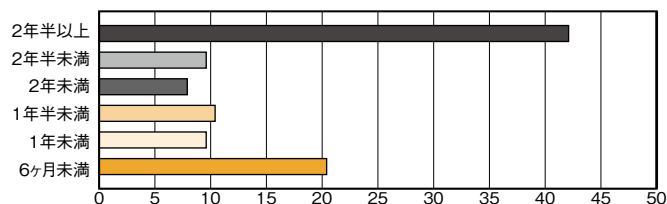
応募者の滞在年数[%]



帰国後年数

	6か月未満	1年未満	1年半未満	2年未満	2年半未満	2年半以上
応募者	57	27	29	22	27	118
合格者	30	20	14	9	12	66
入学者	12	7	4	7	3	27

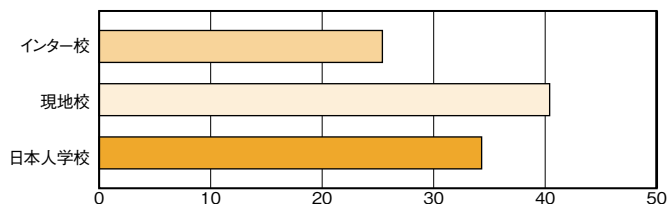
応募者の帰国後年数[%]



海外最終在籍校

	日本人学校	現地校	インター校
応募者	96	113	71
合格者	47	63	41
入学者	12	32	16

応募者の海外最終在籍校[%]



Point!

入学者の最終在籍校は現地校がトップ

帰国後年数は、6ヶ月未満と2年半以上が突出しており、やや2極に分化しています。また、帰国後年数の長い受験生の多くは、日本で進学塾に通っており、B方式の2科目または4科目で受験しています。

6. 帰国生入試 英検取得状況・併願校ベスト5

Point!

英検準1級以上48名出願

今年の帰国生入試では、英検2級以上の応募者が135名に上り、そのうち48名が入学しました(※「入学者」には一般、グローバル入試の入学者を含む。英検2級は大学入試共通テストのレベルにほぼ相当する)。なお、帰国生入試を経て入学した生徒の総数は60名となり、昨年の45名を大きく上回りました。

英語検定

	1級	準1級	2級	準2級	3級
応募者	2	46	87	38	20
合格者	2	39	40	16	8
入学者	2	16	28	9	8

※「入学者」には一般及びグローバル入試の入学者を含む。また「入学者」の英検取得状況は2022年1月時点(2021年度第3回1次試験終了時)のデータ。

Point!

併願校(1月受験校)のトップは海城

1月受験校の上位学校名は昨年度とあまり変わりませんが、トップは海城でした。2月2日受験校では、慶應義塾湘南藤沢中等部がトップ。英語を利用した受験が可能な学校が併願校として挙がっています。3日以降も、東京・神奈川の男子難関校にチャレンジしている受験生が多数存在します。

併願校ベスト5

順位	1	2	3	4	5
～1月31日	海城中学校 63	攻玉社中学校 45	東京都市大学等々力中学校 34	聖光学院中学校 27	渋谷教育学園渋谷中学校 11
2月1日	世田谷学園中学校 10	芝中学校 9	駒場東邦中学校 8	本郷中学校 7	海城中学校・城北中学校 6
2月2日	慶應義塾湘南藤沢中等部 23	世田谷学園中学校 10	聖光学院中学校 6	本郷・城北・東京都市大学付属 5	
2月3日	海城中学校 9	浅野中学校 8	芝中学校 7	筑波大学附属駒場中学校 6	東京都市大学付属・東京都市大学等々力 4

7. グローバル入試 2月2日 (8時30分集合 8時40分試験開始 11時30分試験終了 インターネット発表18時)

1. 入試結果

実施年度	2022年度			2021年度			2020年度		
募集定員	Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名			Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名			Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名		
試験型	英語・算数・作文			英語・算数・作文			英語・算数・作文		
志望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計
応募者数	15	25	40	11	24	35	19	25	44
受験者数	12	23	35	9	22	31	14	23	37
合格者数	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(1)	計 15	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(0)	計 14	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(0)	計 16
	0			2			2		
	6			4			5		
	6		6		7				
実質倍率	2.0	2.6	2.3	1.5	2.8	2.2	2.0	2.6	2.3
入学者数	1	12	13	4	7	11	2	11	13

※()内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

配点と時間

試験科目	配点	時間(分)
英語	100	50
算数	100	50
作文	段階評価	40

平均点

試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	Ⅰ類合格者
英語	77.8	88.0	81.6
算数	50.4	89.0	66.7
2科合計	128.2	177.0	148.3

最高点・最低点

試験科目	Ⅱ類合格者	Ⅰ類合格者
英語最高点	88	95
算数最高点	89	78
2科合計最高点	177	157
2科合計合格者最低点	160	136

(注)算数は第2回入試と共通の問題です。

8. 2022年度入試 主要模試結果偏差値(80%)

Point!

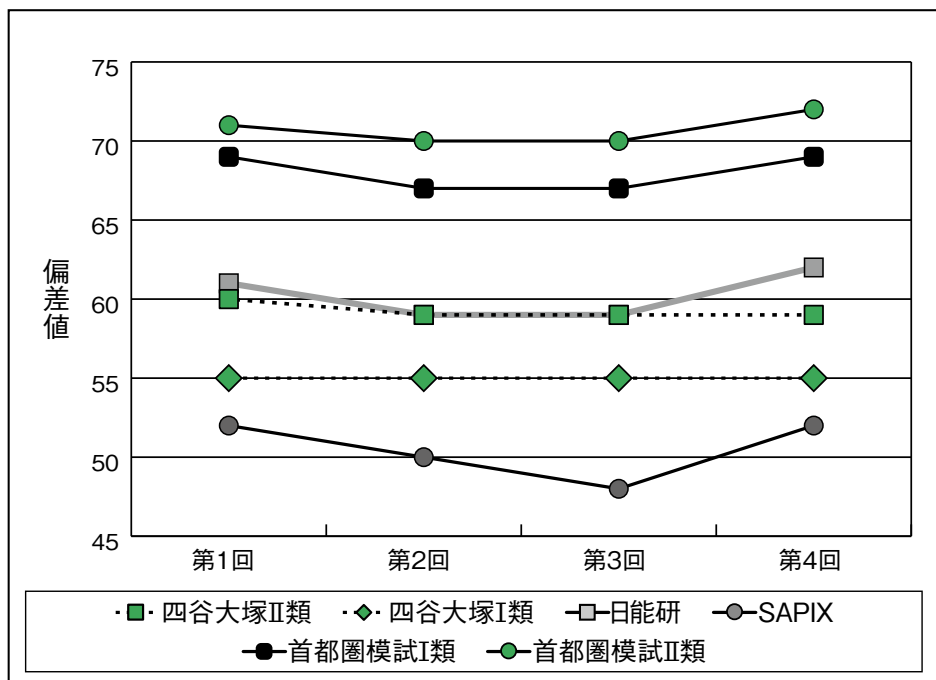
模試ごとに特徴が異なる

各模擬試験により、結果偏差値の表示方法が異なります。四谷大塚と首都圏模試はⅡ類とⅠ類を別々に算出しています。日能研はⅡ類とⅠ類の中間値です。SAPIXはⅠ類の偏差値を表示しています。概ね前年度と同じ傾向を示していますが、各模擬試験ごとに受験者や志願先が異なるため、数値に違いがあります。それぞれの特徴を吟味の上、参考にしてください。

主要模試 結果偏差値(80%)

模試	年度	第1回	2/1午後	第2回	2/2	第3回	2/4	第4回	2/6	平均	前年比較		
四谷大塚	2022	Ⅱ類	60	Ⅱ類	59	Ⅱ類	59	Ⅱ類	59	Ⅱ類	59.3	Ⅱ類	+0.5
		Ⅰ類	55	Ⅰ類	55	Ⅰ類	55	Ⅰ類	55	Ⅰ類	55.0	Ⅰ類	+0.5
	2021	Ⅱ類	60	Ⅱ類	59	Ⅱ類	58	Ⅱ類	58	Ⅱ類	58.8	Ⅱ類	±0
		Ⅰ類	55	Ⅰ類	55	Ⅰ類	54	Ⅰ類	54	Ⅰ類	54.5	Ⅰ類	-0.3
	2020	Ⅱ類	60	Ⅱ類	59	Ⅱ類	58	Ⅱ類	58	Ⅱ類	58.8	Ⅱ類	+0.5
		Ⅰ類	56	Ⅰ類	55	Ⅰ類	54	Ⅰ類	54	Ⅰ類	54.8	Ⅰ類	+0.5
日能研	2022	61		59		59		62		60.3	+1.3		
	2021	60		58		58		60		59.0	+1.0		
	2020	60		56		57		59		58.0	+1.4		
SAPIX	2022	52		50		48		52		50.5	±0.0		
	2021	52		50		48		52		50.5	+0.2		
	2020	52		49		48		52		50.3	+0.3		
首都圏模試	2022	Ⅱ類	71	Ⅱ類	70	Ⅱ類	70	Ⅱ類	72	Ⅱ類	70.8	Ⅱ類	+0.5
		Ⅰ類	69	Ⅰ類	67	Ⅰ類	67	Ⅰ類	69	Ⅰ類	68.0	Ⅰ類	+0.5
	2021	Ⅱ類	70	Ⅱ類	70	Ⅱ類	70	Ⅱ類	71	Ⅱ類	70.3	Ⅱ類	-0.2
		Ⅰ類	68	Ⅰ類	67	Ⅰ類	67	Ⅰ類	68	Ⅰ類	67.5	Ⅰ類	-0.8
	2020	Ⅱ類	70	Ⅱ類	70	Ⅱ類	71	Ⅱ類	71	Ⅱ類	70.5	Ⅱ類	+1.0
		Ⅰ類	68	Ⅰ類	68	Ⅰ類	68	Ⅰ類	69	Ⅰ類	68.3	Ⅰ類	+0.5

2022年度入試 四模試結果偏差値



9. 2月1日午後受験生の午前の受験校

東京	
駒場東邦	163
麻布	76
海城	67
武蔵	60
芝	48
早大学院	45
早稲田	38
桐朋	36
早稲田実業	29

東京	
開成	26
攻玉社	19
本郷	16
渋谷教育渋谷	13
世田谷学園	11
成城	9
城北	9
都市大等々力	7

神奈川	
サレジオ学院	43
慶應普通部	32
桐光学園	25
逗子開成	9
桐蔭中等教育	6

10. 入学者の第1志望校・併願校(新入生保護者アンケートより)

入学者の第1志望校

順位	学校名	人数	昨年の順位・人数
①	東京都市大付属	58	1 51
②	海城	26	3 19
③	浅野	18	7 9
④	麻布	15	14 5
⑤	駒場東邦	14	2 22
⑥	慶應普通部	13	10 7
⑥	武蔵	13	4 12
⑧	早稲田	12	6 10
⑨	早稲田実業	11	9 8
⑨	芝	11	7 9
⑪	早大学院	10	13 6
⑫	栄光学園	6	16 4
⑫	聖光学院	6	10 7
⑫	本郷	6	18 3
⑮	慶應湘南藤沢	5	10 7
⑯	渋谷教育渋谷	4	
⑰	開成	3	19 2
⑱	攻玉社	3	19 2
⑱	慶應中等部	2	14 5
⑱	サレジオ学院	2	4 12

2022年度入試 入学者併願校

2021年度入試 入学者併願校

順位	学校名	人数	—	順位	学校名	人数
①	浅野	50	↗	①	海城	28
②	海城	41	↗	②	浅野	25
③	都市大等々力	23	↗	②	駒場東邦	25
④	攻玉社	22	↗	④	サレジオ学院	23
⑤	駒場東邦	19	↘	⑤	芝	16
⑥	桐光学園	18	↗	⑥	桐朋	15
⑦	芝	17	↗	⑦	成城	14
⑦	早稲田	17	↗	⑧	桐光学園	13
⑨	武蔵	16	↗	⑨	世田谷学園	12
⑩	麻布	15	↗	⑨	慶應中等部	12
⑩	成城	15	↗	⑪	慶應普通部	11
⑫	慶應普通部	14	↗	⑪	早稲田	11
⑫	慶應中等部	14	↗	⑬	聖光学院	10
⑫	聖光学院	14	↗	⑬	高輪	10
⑫	本郷	14	↗	⑬	本郷	10
⑯	サレジオ学院	12	↘	⑯	慶應湘南藤沢	9
⑯	桐朋	12	↘	⑰	攻玉社	8
⑱	栄光学園	11	↗	⑰	早稲田実業	8
⑱	早稲田実業	11	↗	⑰	都市大等々力	8
⑳	慶應湘南藤沢	10	↗	⑰	東京農大第一	8
⑳	桐蔭中等教育	10	↗	⑰	明大明治	8

矢印は人数の変動を表しています。

Point!

多様な併願パターンに対応

上の表(9.)は、受験生が願書に記載された2月1日午前の受験校を集計したものです。下の表(10.)は実際に入学された方へのアンケート結果です。いずれも2022年度入試における本校との併願の傾向を読み取ることができます。本校は、一度の出願で何度でも受験できること、すべての入試の手続き締め切りが2月8日と他校の結果と合わせて検討できることなどから、さまざまな併願パターンに対応できる入試を行っています。

11. 受験志望の動機など（新入生保護者アンケートより）

Point!

進学校としての指導体制に期待

このページのデータは本校に合格し、入学説明会に参加された保護者の方に行ったアンケート結果です。受験の決め手として最も多かったのは、「進学校としての学習指導体制」で、ここ数年同じ傾向が続いています。一方進学先の希望落として東京都市大学を記入したご家庭は少数です。本校が進学校として認知されていることが示されています。

本校を受験する決め手となったもの（複数回答可）

項目	進学校としての学習指導体制	説明会や校内見学に参加して	校舎・グラウンド等の施設	通学の便	理科実験	行事やクラブ活動
今年	199人 (82.6%)	156人 (64.7%)	128人 (52.7%)	117人 (48.5%)	108人 (44.8%)	96人 (39.8%)
昨年	196人 (73.1%)	120人 (44.8%)	117人 (43.7%)	104人 (38.8%)	119人 (44.4%)	87人 (32.5%)
一昨年	177人 (66.0%)	173人 (64.6%)	118人 (44.0%)	117人 (43.7%)	129人 (48.1%)	96人 (35.8%)
項目	第一志望の併願先として	将来を見据えた進路指導	グローバル教育	先生の熱意	偏差値	塾の先生の勧め
今年	90人 (37.3%)	85人 (35.3%)	83人 (34.4%)	74人 (30.7%)	74人 (30.7%)	53人 (22.0%)
昨年	91人 (34.0%)	74人 (27.6%)	61人 (22.8%)	65人 (24.3%)	66人 (24.6%)	39人 (14.6%)
一昨年	90人 (33.6%)	74人 (27.6%)	70人 (26.1%)	76人 (28.4%)	48人 (17.9%)	56人 (20.9%)
項目	英語の取り出し授業	情報誌等の記事を読んで	学園祭などの生徒の様子	大学の付属校だから	その他	
今年	45人 (18.7%)	35人 (16.2%)	31人 (12.9%)	5人 (2.1%)	1人 (0.4%)	
昨年	35人 (13.1%)	22人 (8.2%)	50人 (18.7%)	4人 (1.5%)	13人 (4.9%)	
一昨年	37人 (13.8%)	12人 (4.5%)	87人 (32.5%)	7人 (2.6%)	8人 (3.0%)	

Point!

ご来校の機会はホームページでご確認を

昨年度はコロナ禍により、学校説明会や見学会の開催を削減せざるを得ませんでした。このため、「説明会や校内見学に参加して」や「学園祭などの生徒の様子」を受験の決め手として挙げられたご家庭は減少しました。今年度は可能な限り学校にお越しいただける機会を持ちたいと考えております。日程の詳細はホームページでご確認ください。

現時点での大学進学希望（複数回答可）

項目	国公立大学	難関私立大学	子供の意志に任せる	私立大学	東京都市大学	今は考えていない
今年	175人 (72.6%)	145人 (60.2%)	98人 (40.7%)	25人 (10.4%)	10人 (4.1%)	2人 (0.8%)
昨年	165人 (61.6%)	129人 (48.1%)	85人 (31.7%)	19人 (7.1%)	3人 (1.1%)	4人 (1.5%)
一昨年	180人 (67.2%)	142人 (53.0%)	105人 (39.2%)	26人 (9.7%)	8人 (3.0%)	12人 (4.5%)

学習塾に通い始めた学年

学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
今年	4人 (1.7%)	14人 (5.8%)	92人 (38.2%)	93人 (38.6%)	28人 (11.6%)	7人 (2.9%)
昨年	10人 (4.3%)	9人 (3.9%)	69人 (29.9%)	98人 (42.4%)	37人 (16.0%)	8人 (3.5%)
一昨年	13人 (5.4%)	35人 (14.6%)	77人 (32.2%)	96人 (40.2%)	9人 (3.8%)	9人 (3.8%)

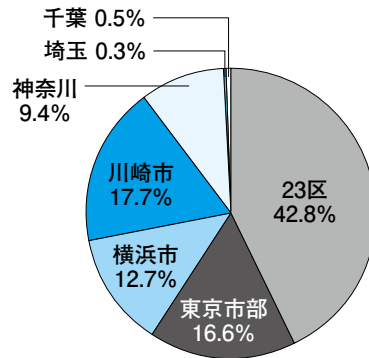
12. 2021年度 通学地域集計表

Point!

通学圏は広範囲

コロナ禍で、近距離通学が増えるのではとの観測もありましたが、広範囲から通学する生徒も多く傾向は例年と大きくは変わっていません。今後、東横線との直通運転が始まる相鉄線沿線も利便性が高まります。

2021年度



東京市部

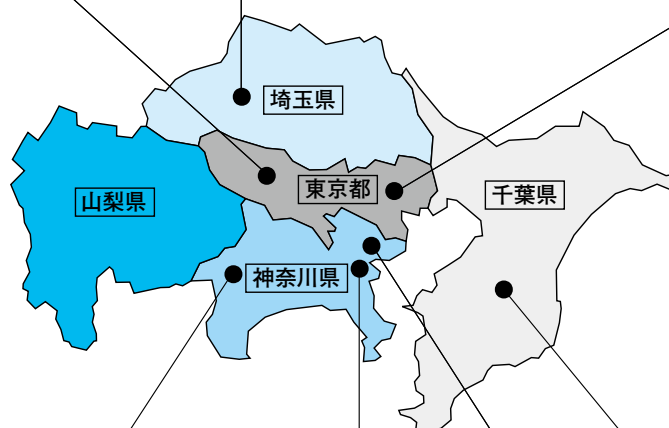
	中学生	高校生	中高計
調布	26	18	44
狛江	11	14	25
三鷹	8	4	12
武蔵野	4	5	9
町田	25	29	54
府中	10	9	19
多摩	19	8	27
稲城	8	10	18
昭島	0	1	1
国分寺	3	1	4
八王子	6	4	10
国立	2	2	4
日野	5	0	5
立川	3	2	5
小金井	1	0	1
小平	2	1	3
東村山	0	1	1
西東京	1	0	1
武蔵村山	2	0	2
計	136	109	245

埼玉県

	中学生	高校生	中高計
川越	0	1	1
八潮	1	0	1
吉川	0	1	1
和光	1	0	1
計	2	2	4

東京都23区

	中学生	高校生	中高計
世田谷	157	165	322
目黒	29	18	47
品川	10	8	18
大田	32	14	46
港	9	10	19
中野	6	7	13
杉並	32	31	63
新宿	10	13	23
渋谷	15	11	26
墨田	0	1	1
北	2	2	4
練馬	2	5	7
葛飾	1	2	3
江東	5	1	6
中央	4	0	4
文京	4	5	9
豊島	4	0	4
足立	3	0	3
江戸川	1	4	5
板橋	0	3	3
千代田	0	1	1
台東	3	0	3
計	329	301	630



神奈川県

	中学生	高校生	中高計
相模原	28	21	49
厚木	5	4	9
海老名	3	13	16
藤沢	6	5	11
大和	14	3	17
伊勢原	4	4	8
秦野	5	4	9
座間	7	6	13
南足柄	0	1	1
足柄上郡	0	1	1
小田原	0	1	1
綾瀬	0	1	1
茅ヶ崎	2	0	2
高座郡	1	0	1
計	75	64	139

横浜市

	中学生	高校生	中高計
青葉	49	45	94
旭	1	3	4
緑	11	8	19
港北	12	12	24
都筑	14	12	26
神奈川	3	1	4
泉	1	1	2
港南	1	0	1
鶴見	5	2	7
瀬谷	0	2	2
保土ヶ谷	2	0	2
戸塚	1	0	1
栄	0	1	1
計	100	87	187

千葉県

	中学生	高校生	中高計
浦安	3	2	5
市川	0	1	1
流山	1	0	1
計	4	3	7

川崎市

	中学生	高校生	中高計
川崎	2	4	6
麻生	35	43	78
幸	5	9	14
多摩	17	15	32
中原	24	23	47
宮前	27	12	39
高津	26	18	44
計	136	124	260

13. 校納金等一覧 (2022年度)

●中学1年次にお支払いいただく費用

科 目		手 続 時	4 月	7 月	10 月	12 月	計
納付金	入学金	50,000円	200,000円				250,000円
	授業料		129,000円	129,000円	129,000円	129,000円	516,000円
	施設設備料		150,000円				150,000円
	維持料		100,000円				100,000円
預り金	学年費		60,000円				60,000円
	図書費		1,800円				1,800円
	災害備蓄用品費		4,000円				4,000円
	中2体験旅行積立金				20,000円	20,000円	40,000円
	林間学校積立金		45,000円				45,000円
	生徒会入会金		2,000円				2,000円
	生徒会費		6,000円				6,000円
	P T A 入会金		3,000円				3,000円
	P T A 会費		10,000円				10,000円
	日本スポーツ振興センター掛金		420円				420円
合 計		50,000円	711,220円	129,000円	149,000円	149,000円	1,188,220円

*付属高校進学の際は、あらためて入学金を納入していただきます。

●上記以外に購入していただく指定物品

学生服 冬服 (上着+ズボン+ワイシャツ+ベルト)	43,450円
夏服 (ズボン+半袖ワイシャツ)	13,310円
カバン (ショルダー)	7,000円
カバン (リュック)	9,800円
体操着 (トレシャツ)	6,930円
体操着 (トレパン)	4,730円
体操着 (半袖シャツ)	3,410円
体操着 (ハーフパンツ)	4,070円
体育館シューズ	4,300円
シューズ袋	300円
白衣	2,400円
白衣袋	300円

*カバンはショルダーかリュックのいずれかを購入。

●希望購入品

長袖ワイシャツ (校章入り)	3,080円
セーター (校章入り)	8,140円
ポロシャツ	5,060円
学生靴	7,150円

Point!

寄付金や学債、補習費などは一切なく、これ以外に必要なのは、クラブ活動の部費や合宿費と、高校の教科書代のみ。

14. 2022年度 中学校使用教科書・副教材一覧

●教科書

科目	学 年	出 版 社	書 名
国語	1	教 出	伝え合う言葉 中学国語 1
国語	2	教 出	伝え合う言葉 中学国語 2
国語	3	教 出	伝え合う言葉 中学国語 3
書写	1	教 出	中学書写 1
書写	2	教 出	中学書写 2・3
地理	1	日 新	わたしたちの中学社会 地理的分野
歴史	2	日 新	わたしたちの中学社会 歴史的分野
公民	3	日 新	わたしたちの中学社会 公民的分野
地図	1	帝 国	新編 中学校社会科地図 初訂版
数学	1	啓 林 館	未来へひろがる 数学1
数学	2	啓 林 館	未来へひろがる 数学2
数学	3	啓 林 館	未来へひろがる 数学3
理一	1	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス 第1分野 (上)
理一	2	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス 第1分野 (下)
理二	1	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス 第2分野 (上)
理二	2	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス 第2分野 (下)
音楽	1	教 芸	中学生の音楽 1
音楽	2	教 芸	中学生の音楽 2・3 下
器楽	1	教 芸	中学生の器楽
美術	1	日 文	美術 1 自由な心で
美術	2	日 文	美術 2・3 上 美を求めて
美術	2	日 文	美術 2・3 下 美術の広がり
保体	1	学 研	新・中学保健体育
技術	1	東 書	新編 新しい技術・家庭 技術分野
家庭	1	開 隆 堂	技術・家庭 家庭分野
英語	1	東 書	NEW HORIZON English Course 1
英語	2	東 書	NEW HORIZON English Course 2
英語	3	東 書	NEW HORIZON English Course 3
道德	1	東 書	新しい道德 1
道德	2	東 書	新しい道德 2
道德	3	東 書	新しい道德 3

※上記のほかに、高校の教科書を前倒して使用

●副教材 (中1)

科目	書 名	出版社	科目	書 名	出版社	
国語	新訂総合国語便覧新版七訂	第一学習社	地学	系統的に学ぶ 中学 地学	文理	
	国語スイッチ1(ノートつき・教育出版)	正進社		中学の地学	教育開発出版	
	漢字学習ステップ4級改訂4版	漢検協会	地学・科学実験	最新 理科便覧 東京都版	浜島書店	
	思考の基礎力【増補版】	受験研究社	英G	English Search I	教育開発出版	
	文豪へのいざない	好学出版	英C	Time Zones Student Book Combo Split 1A	Cengage Learning	
社会	アドバンス中学地理資料 白地図ワーク・統計付	帝国書院	英R	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 1	Z会出版	
代数	体系数学1(代数編)	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES WORKBOOK STAGE 1	Z会出版	
	体系問題集数学1代数編【発展】本冊	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES Penmanship	Z会出版	
	体系問題集数学1代数編【発展】解答編	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 1 CDs for Students	Z会出版	
幾何	体系数学1(幾何編)	数研出版		New Treasure English Series Stage 1 文法問題集	Z会出版	
	体系問題集数学1幾何編【発展】本冊	数研出版		フェイバリット英和辞典 第4版	東京書籍	
	体系問題集数学1幾何編【発展】解答編	数研出版		保健体育	ActiveSports	大修館書店
				音楽	音楽のハーモニー1	正進社

👉 Point!

英語RはNew Treasureを使用

文科省の検定教科書は無償配布ですが、特に前倒しのカリキュラムを組んでいる英語と数学では、オリジナルテキストや家庭学習用の問題集を副読本として使用し、きめの細かい指導を行っています。また、コース制導入に伴い、英語Rの授業ではNew Treasureを使用しています。なお、英語の取り出し授業では、アメリカの現地校で使用しているテキストを取り寄せ、高度な内容の授業を展開しています。

15. 夏期・冬期・春期講習 開講講座(学年別)

Point!

放課後に加え、休業中の講習や合宿も

平常の放課後と同様に、生徒の学力や進路希望に応じて基礎補習と応用講座を開設。このほかに高校では夏休みを利用して5泊6日(高1は3泊4日)の学習合宿が行われています。

2020年度と2021年度はコロナ禍のため、学習合宿と一部の講座を中止しましたが、例年は下記のような講座を開講しています。

学年	教科	講座名
中1	英語	基礎
中1	英語	応用
中1	数学	基礎
中1	数学	応用
中2	英語	基礎
中2	英語	応用
中2	数学	基礎
中2	数学	応用
中3	英語	基礎
中3	英語	応用
中3	数学	基礎
中3	数学	応用
高1	英語	基礎
高1	英語	応用
高1	国語	現代文演習
高1	国語	古典演習
高1	数学	基礎
高1	数学	応用
高1	理科	化学基礎①
高1	理科	化学基礎②
高2	英語	基礎
高2	英語	応用
高2	国語	現代文演習
高2	国語	古文基礎
高2	国語	古文演習(応用)
高2	国語	漢文演習(標準)
高2	数学	基礎
高2	数学	理系応用
高2	数学	文系応用
高2	理科	物理(標準)
高2	理科	物理(応用)
高2	理科	化学基礎①
高2	理科	化学基礎②
高2	理科	理系生物
高2	社会	日本史(理)
高3	英語	センター英語
高3	英語	東大
高3	英語	東工大
高3	英語	一橋
高3	国語	国立現代文記述
高3	国語	国立古典記述
高3	国語	現文演習
高3	国語	センター古文漢文
高3	数学	東大文理系
高3	数学	東大理系
高3	数学	東工大
高3	数学	一橋
高3	数学	数学Ⅲ演習
高3	数学	センターⅠA
高3	数学	センターⅡB
高3	理科	物理(標準)
高3	理科	物理(応用)

学年	教科	講座名	
高3	理科	化学応用①	
高3	理科	化学応用②	
高3	理科	文系センター対策地学	
高3	理科	文系センター生物基礎演習	
夏	高3	社会	日本史(文)
高3	社会	世界史(文)	
高3	社会	地理	
高3	社会	セ日史	
高3	社会	セ地理	
高3	社会	セ倫政	
高3	社会	政経	

学年	教科	講座名
中1	英語	英語基礎
中1	英語	英語応用
中1	数学	数学基礎(指名)
中1	数学	数学応用(Ⅱ類必修)
中1・2	英語	英語取り出し
中2	英語	英語基礎
中2	英語	英語応用
中2	数学	数学基礎(指名)
中2	数学	数学応用(Ⅱ類必修)
中3	英語	英語基礎
中3	英語	英語応用
中3	数学	数学基礎(指名)
中3	数学	数学応用(Ⅱ類必修)
中3	英語	英語取り出し
高1	英語	英語取り出し
高1	英語	英語基礎
高1	英語	英語応用
高1	国語	古典演習
高1	国語	現代文演習
高1	数学	数学基礎(指名)
高1	数学	数学応用(Ⅱ類必修)
高1	理科	化学基礎①
高1	理科	化学基礎②
高2	英語	英語基礎
高2	英語	英語応用
高2	国語	現代文演習
高2	国語	古文演習
高2	国語	漢文演習
高2	社会	日本史(理)
高2	数学	数学基礎(指名)
高2	数学	理系数学応用
高2	数学	文系数学応用
高2	理科	物理(応用)
高2	理科	物理(基礎)
高2	理科	化学基礎(理系)①
高2	理科	化学基礎(理系)②
高2	理科	理系生物演習
高3	英語	センター英語
高3	国語	センター漢文
高3	国語	センター古文

学年	教科	講座名	
高3	国語	記述古文	
高3	国語	センター現代文	
高3	国語	記述現文	
高3	社会	日本史(文)	
高3	社会	世界史(文)	
高3	社会	地理	
高3	社会	センター日本史	
高3	社会	センター地理	
高3	社会	政治経済	
冬	高3	理科	理系生物演習
高3	理科	センター物理	
高3	理科	物理入試問題演習	
高3	理科	文系センター化学基礎	
高3	理科	化学応用①	
高3	理科	化学応用②	
高3	理科	東大・京大対策・化学	
高3	理科	文系センター生物基礎	
高3	数学	センター演習	
高3	数学	確率・整数総合演習	
高3	数学	難関大数学Ⅲ	
高3	数学	数学Ⅲ総合演習	

学年	教科	講座名
中1	英語	英語基礎
中1	英語	英語応用
中2	英語	英語基礎
中2	英語	英語応用
中3	英語	英語基礎
中3	英語	英語応用
高1	英語	英語基礎
高1	英語	英語応用
高2	英語	英語基礎
高2	英語	英語応用
中1	数学	基礎(指名)
中1	数学	応用(Ⅱ類必修)
中1	数学	応用(Ⅱ類必修)
中2	数学	基礎(指名)
中2	数学	応用(Ⅱ類必修)
中3	数学	基礎(指名)
中3	数学	応用(Ⅱ類必修)
高1	数学	基礎(指名)
高1	数学	応用
高2	数学	文系応用
高2	数学	理系応用
高2	社会	日本史(文)
高2	社会	世界史(文)
高1	理科	化学基礎①
高1	理科	化学基礎②
高2	理科	化学基礎(理系)①
高2	理科	化学基礎(理系)②

※①・②は別内容、別講座を表します。
 ※高校生は夏休み中に、希望者を対象に5泊6日(高1のみ3泊4日)の学習合宿を実施します。
 ※開講される講座は、年度によって異なります。

16. 高2 ベネッセ模試 結果 2022年1月実施

◆全体概況

	国数英	国語	数学	英語
	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値
全体	65.6	57.8	66.5	63.9
I類	58.6	54.0	60.6	57.8
II類	69.4	60.6	70.6	69.0
帰国生（英語取り出し生徒）	71.7	55.8	68.0	75.8

Point!

在校生にさらなる期待が

今春卒業した第69期生（コース制第4期）は、東大11名の現役合格をはじめ、多数が旧帝大、国公立大医学部、早慶上理等の難関私立大の入試を突破しました（P19参照）。上記のデータは、中高一貫校が在校生の学力を定点観測するために受験している模擬試験の結果です。在校生も先取りカリキュラムとコース別授業のメリットを生かし、着実に学力をつけていることが分かります。

17. 中学生検定取得率

英検（2021年度 第3回まで）

	中1	中2	中3
1級	0.4%	1.3%	0.7%
準1級	4.0%	9.3%	9.7%
2級	9.3%	15.6%	23.0%
準2級	10.9%	42.2%	67.3%
3級	17.7%	92.0%	98.1%

漢検（2021年度 第3回まで）

	中1	中2	中3
2級			3.0%
準2級		8.8%	52.2%
3級	7.3%	87.1%	87.8%
4級	92.7%	91.7%	99.6%

Point!

帰国生の影響は国内生にも

英語力の高い帰国生の影響を受けて、国内生の英語に対するモチベーションが大きくアップしており、英検合格率も高くなっています。2021年度はコロナ禍により、英検、漢検ともに受験機会が減ってしまったので、数値はその影響を受けています。

18. 2021年度 クラブ所属部員数(中学・高校)

I 部活動

2021年4月1日(中1のみ6月30日)現在

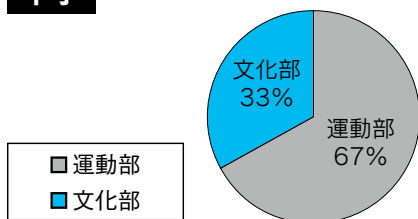
【運動部】

部活動名	部員数(中学)				部員数(高校)			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
アメリカンフットボール部					2	12	5	19
アイスホッケー部	3	3	8	14	1	8	3	12
競技スキー部	6	6	5	17	1	3	1	5
剣道部	6	2	5	13	0	5	5	10
硬式野球部	9	12	14	35	7	7	7	21
ゴルフ部	7	1	8	16	11	0	0	11
サッカー部	27	23	34	84	15	12	11	38
少林寺拳法部	8	0	5	13	12	6	2	20
自転車部					9	0	4	13
柔道部	1	2	10	13	8	1	0	9
水泳部	5	7	13	25	5	6	0	11
卓球部	16	14	13	43	6	8	8	22
テニス部	6	11	15	32	10	9	0	19
ハンドボール部					13	4	0	17
バスケットボール部	13	19	10	42	12	9	11	32
バドミントン部	21	30	10	61	19	9	4	32
軟式野球部	11	13	7	31	5	7	0	12
陸上競技部	9	11	8	28	7	14	4	25

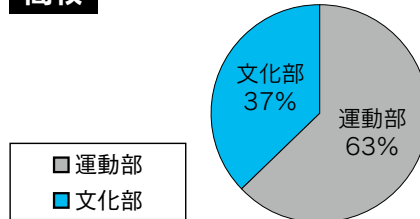
【文化部】

部活動名	部員数(中学)				部員数(高校)			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
エレクトロニクス研究部	7	1	11	19	6	7	6	19
軽音楽部					5	16	7	28
将棋部	2	3	7	12	8	0	7	15
自動車部	15	5	6	26	2	4	6	12
吹奏楽部	15	15	18	48	8	17	22	47
生物研究部	15	11	2	28	3	6	2	11
鉄道研究部	22	14	7	43	5	5	7	17
天文部	7	4	2	13	12	2	0	14
美術部	1	1	3	5	5	6	4	15
マルチメディア研究部	9	20	12	41	8	3	7	18

中学



高校



Point!

多種多様なクラブ・高い加入率

本校では、「勉強もクラブも100対100」という先輩の言葉を励みに、多くの生徒がクラブ活動を楽しんでいます。活動日は原則週3回。中高合わせて28種類の運動部、文化部があり、加入率は中学93%、高1高2 89%です。2021年度は、コロナ禍により活動を縮小したり、大会が中止となるなどの影響がありましたが、各クラブとも制約のなかでも工夫しながら活動できました。

19. 2021年度 クラブ活動・教科活動主要実績一覧

Point!

制約の中でも活躍

今年度はコロナ禍の影響で中止や縮小となった大会も多くなってしまいました。多くのクラブが感染対策を徹底して、限られた場を生かし、活躍しました。

【中学】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
陸上競技部	東京都中学校地域別区部陸上競技会	1年生男子100m 西部第9位(都大会出場)
	世田谷区中学校対抗陸上競技大会	中3 100m 第3位 共通砲丸投 第2位 共通4×100mリレー 第2位
テニス部	世田谷区中学校体育連盟テニス部夏期総合体育大会	個人の部 男子シングルス 第3位(都大会出場)
	第6ブロック中学校秋季新人テニス大会	シングルス 準優勝(都大会ベスト64)
硬式野球部	日本少年野球(ボーイズリーグ)選手権大会予選	東京西支部 第3位
	日本少年野球(ボーイズリーグ)関東大会予選	東京西支部 優勝(関東大会出場)
少林寺拳法部	関東中学校少林寺拳法オープン大会	男子単独演武の部 優勝

【高校】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
サッカー部	東京都高等学校総合体育大会	南支部予選 第1位(都大会出場)
卓球部	関東大会東京予選	男子団体 ベスト16
	東京都総合体育大会(インターハイ予選)	男子団体 ベスト16
	東京卓球選手権大会予選会	ジュニア男子シングルス 予選通過(全国大会出場)
	東京都新人卓球大会	男子団体 ベスト16
陸上競技部	東京都高等学校陸上競技選手権大会	第4支部予選やり投げ 第8位
	東京都高等学校新人陸上競技大会	第4支部予選男子三段跳び 第4位、第6位、第8位(都大会出場) 同男子やり投げ 第6位、第8位(都大会出場) 同砲丸投げ 第5位(都大会出場)
バスケットボール部	第1支部選抜選出	高2生1名
アイスホッケー部	国民体育大会	少年の部に高2生1名が出場し第3位
少林寺拳法部	関東高等学校選抜大会	男子団体演武の部 第7位(全国選抜大会出場)

【文化部】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
マルチメディア研究部	日本情報オリンピック	予選 Aランク(本選進出)

【個人】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
中3	税についての作文	税務署長賞、優秀賞
高1情報科	東京都統計グラフコンクール	パソコン統計グラフの部 佳作、努力賞
	クエストカップ全国大会	企業探究部門「コーポレートアクセス」優秀賞
中2	日本ジュニア数学オリンピック	銀賞(アジア太平洋数学オリンピック参加資格獲得)

20. 2022年度 大学合格実績一覧

◎ 国公立大学

大学名	2022年度合格者数		
	現役	既卒	合計
大阪大学	1	1	2
岡山大学	1	0	1
京都大学	4	0	4
釧路公立大学	1	0	1
群馬大学	2	0	2
神戸大学	1	0	1
埼玉大学	1	0	1
静岡大学	0	1	1
信州大学	1	0	1
筑波大学	1	1	2
電気通信大学	1	0	1
東京大学	11	1	12
東京医科歯科大学	1	1	2
東京外国語大学	3	0	3
東京海洋大学	2	0	2
東京工業大学	7	0	7
東京都立大学	2	0	2
東京農工大学	2	1	3
東北大学	4	1	5
長崎大学	1	1	2
名古屋大学	1	0	1
一橋大学	5	2	7
北海道大学	8	0	8
宮城大学	1	0	1
山梨大学	1	0	1
横浜国立大学	8	3	11
横浜国立大学	2	0	2
合計	73	13	86

◎ 私立大学

大学名	2022年度合格者数			大学名	2022年度合格者数		
	現役	既卒	合計		現役	既卒	合計
愛知大学	0	1	1	帝京平成大学	0	1	1
青山学院大学	29	6	35	東海大学	7	5	12
麻布大学	1	0	1	東京医科大学	3	0	3
桜美林大学	3	0	3	東京工科大学	5	0	5
学習院大学	5	2	7	東京歯科大学	0	1	1
神奈川大学	2	2	4	東京慈恵会医科大学	3	0	3
神奈川工科大学	2	0	2	東京電機大学	1	5	6
関西大学	1	1	2	東京都市大学	8	4	12
関西学院大学	4	0	4	東京農業大学	8	3	11
関東学院大学	1	1	2	東京薬科大学	1	0	1
北里大学	2	3	5	東京理科大学	70	13	83
京都外国語大学	2	0	2	同志社大学	4	0	4
杏林大学	3	1	4	東洋大学	9	4	13
国立音楽大学	1	0	1	獨協医科大学	0	1	1
慶應義塾大学	48	7	55	日本大学	24	23	47
工学院大学	9	4	13	日本医科大学	2	0	2
國學院大学	3	0	3	日本歯科大学	0	1	1
国際医療福祉大学	3	1	4	福岡大学	0	1	1
国士舘大学	3	1	4	文教大学	1	1	2
駒澤大学	5	1	6	法政大学	40	17	57
産業能率大学	0	1	1	星薬科大学	1	0	1
芝浦工業大学	21	6	27	北海道医療大学	0	1	1
順天堂大学	3	1	4	武蔵大学	3	0	3
城西大学	0	1	1	武蔵野大学	0	1	1
上智大学	20	2	22	武蔵野美術大学	1	0	1
湘南工科大学	0	1	1	明海大学	2	1	3
昭和大学	1	2	3	明治大学	94	20	114
昭和薬科大学	1	0	1	明治学院大学	6	1	7
駿河台大学	0	1	1	名城大学	0	1	1
成蹊大学	3	3	6	明星大学	1	0	1
成城大学	3	2	5	目白大学	0	1	1
聖マリアンナ医科大学	1	0	1	立教大学	35	8	43
専修大学	9	1	10	立正大学	1	0	1
玉川大学	1	0	1	立命館大学	5	2	7
多摩美術大学	1	0	1	立命館アジア太平洋大学	3	0	3
千葉工業大学	0	5	5	流通経済大学	0	1	1
中央大学	42	11	53	早稲田大学	90	7	97
帝京大学	7	0	7	合計	668	192	860

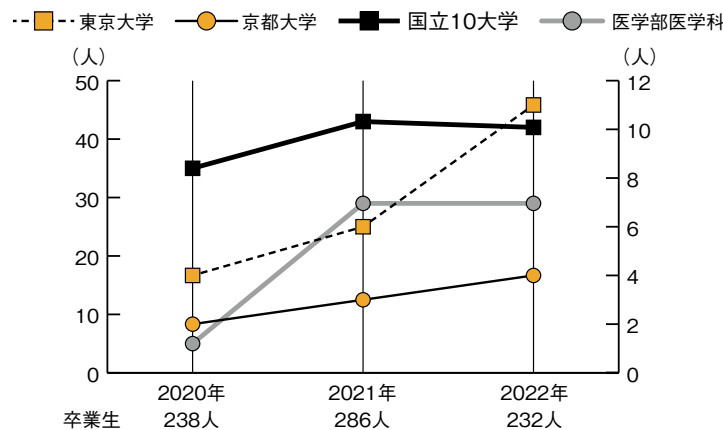
◎ 文部科学省管轄外

大学名	2022年度合格者数		
	現役	既卒	合計
防衛医科大学校	3		3
合計	3		3

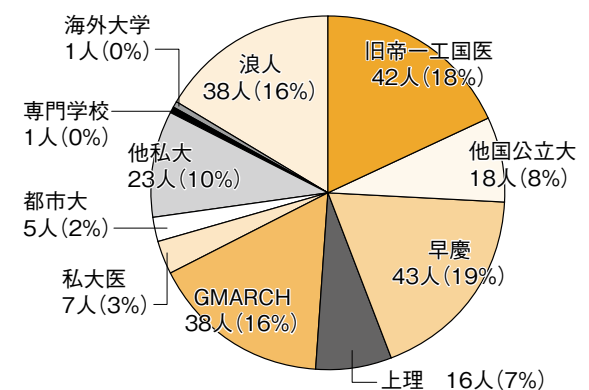
◎ 医学部医学科

大学名	2022年度合格者数		
	現役	既卒	合計
群馬大学	1		1
東北大学	1		1
長崎大学	1		1
横浜市立大学	1		1
東京医科歯科大学	1	1	2
北里大学		1	1
杏林大学	2	1	3
慶應義塾大学	1		1
国際医療福祉大学	3	1	4
順天堂大学	2	1	3
昭和大学	1	1	2
聖マリアンナ医科大学	1		1
帝京大学	3		3
東京医科大学	3		3
東京慈恵会医科大学	3		3
獨協医科大学		1	1
日本医科大学	2		2
福岡大学		1	1
防衛医科大学校	3		3
合計	29	8	37

難関大合格実績（現役のみ）



高校69期進学状況



Point!

過半数が現役で難関大学へ進学

今春卒業した第69期生は、東大11名、京大4名の現役合格をはじめ、多数が難関大学の入試を突破しました。左のグラフのとおり、合格実績は上昇しています。医学部医学科への合格が増えているのも、近年の特徴です。右のグラフは進学者実数のデータです。卒業生の1/4強が国公立大学に、別の1/4強が難関私大（早慶上理）に進学しました。

21. 2021年度 指定校推薦主要大学

Point!

指定校推薦枠の総数は300名以上

例年、多くの有名大学から指定校枠をいただいております。近年では医歯薬系の枠が増えています。しかしながら、指定校推薦の希望者が募集枠に達するのは早稲田大学などごく一部の大学のみで、他大学については定員に達しない状況が続いています。

大学名	学部	学科	人数	大学名	学部	学科	人数	
青山学院大学	理工学部	電気電子工学科	1名	東邦大学	理学部	生物学科	1名	
学習院大学	理学部	数学科	2名			生物分子科学科	1名	
	経済学部	経済学科	1名			物理学科	1名	
北里大学	薬学部	生命創薬	1名			情報科学科	2名	
工学院大学	先進工学部		3名			生命圏環境科学科	1名	
	建築学部		2名	生産工学部 (千葉県習志野市)	①建築工学科、マネジメント工学科	学部全体で 1名		
	工学部		3名		②数理情報工学科、創生デザイン学科、機械工学科			
	情報学部		2名		③電気電子工学科、土木工学科、環境安全工学科			
上智大学	理工学部	物質生命理工学科	1名		④応用分子化学科			
		機能創造理工学科	1名	文理学部	数学科	1名		
	法学部	地球環境法学科	1名		英文学科	1名		
芝浦工業大学	全学部	全学科	人数制限なし	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化	1名	
東京都立大学	都市環境	都市基盤環境	1名		国際教養学部	国際教養学科経済経営学専攻	1名	
昭和薬科大学	薬学部	*薬学6年制	1名	法政大学	理工学部	機械工学科、航空操縦学専修を除く全学科	1名	
成蹊大学	理工学部		1名	明治大学	理工学部	機械工学科、建築学科、応用化学科、情報科学科	1名	
文教大学	国際学部	国際理解学科	1名			機械情報工学科	1名	
		国際観光学科	1名		総合数理学部	ネットワークデザイン学科	1名	
	経営学部	経営学科	1名	明治学院大学	経済学部	国際経営	1名	
聖マリアナ医科大	医学部	医学科	2名			経済	1名	
中央大学	商学部	学科指定なし	1名		法学部	法律	1名	
	総合政策学部	学科指定なし	1名		文学部	フランス文	全体1名	
	経済学部	学科指定なし	1名			経済学部		経済
	理工学部	人間総合理工学科	1名			社会学部		社会福祉
	東海大学	情報通信学部	情報通信学科			1名		法学部
法学部		法律学科	1名			消費情報環境法		
工学部		機械システム工学科	1名			政治		
東京薬科大学	薬学部(男子部)	*6年制課程	2名		スポーツ枠			
	生命科学部		2名	社会学部				
東京理科大学	工学部	電気工学科	1名	法学部				
	先進工学部	マテリアル創成工学部	1名	文学部				
		生命システム工学部	1名	明治薬科大学	薬学部	薬(6年制)	1名	
	理学部第一学部(A類)	化学科	1名			生命創薬(4年制)	1名	
	経営学部	ビジネスエコノミクス学科	1名	早稲田大学	創造理工学部	環境資源工学科	1名	
	理学部第一部(B類)	数学科・物理学科・化学科・応用数学科・応用物理学科・応用化学科	1名		基幹理工学部	学系I	1名	
		理工学部	応用生物科学科		1名	商		1名
	薬	生命創薬科学科	1名		文化構想		1名	
	理学部第二部	数学科	数学科	1名	横浜市立大学	国際商学部	国際商学科	1名
			物理学科	1名	同志社大学	商学部	商学科	1名
化学科		1名						

22. 2022年度 学校説明会・行事日程

○学校説明会

6/18(土)、9/10(土) 14:00~16:30 (個別相談+校内見学を含みます)

○イブニング説明会

7/15(金) 18:30~20:00 (個別相談+校内見学を含みます)

○帰国生&グローバル入試説明会

7/30(土)、9/24(土) 詳細はホームページで発表いたします

○入試説明会

11/20(日) 10:00~12:30 (個別相談+校内見学を含みます)

○ミニ説明会

5/11(水)、6/1(水)、9/24(土)、10/26(水)、11/30(水)、1/14(土) 10:00~11:30

○ミニ見学会

7/16(土)~7/30(土)、12/17(土)~12/27(火)、3/24(金)~3/30(木)

○柏苑祭(文化祭)

10/1(土)、10/2(日)

※学校説明会は学校生活、入試説明会は入試関連の話題が中心になります。

※すべての説明会で帰国生&グローバル入試説明会を行います。

○個別見学(予約必要) 随時実施

○説明会の予約は、開催の1ヶ月前に学校ホームページ(<https://www.tcu-jsh.ed.jp/>)でご案内いたしますので、ご覧の上お申し込みください。

23. 2023年度 中学入学試験要項(概要)

1. 日程と募集人員

		帰国生入試	グローバル入試	第1回	第2回	第3回	第4回
試験日		1月6日(金)午前	2月3日(金)午前	2月1日(水)午前	2月1日(水)午後	2月3日(金)午前	2月5日(日)午前
募集人員	Ⅱ類	若干名	若干名	約10名	約40名	約20名	約10名
	Ⅰ類		若干名	約40名	約60名	約40名	約20名
入学手続バ切		2月7日(火)12時					
試験科目		[A方式] (国語型)国語・算数・英語 (作文型)算数・英語・作文(日本語) [B方式] (2科型)国語・算数 (4科型)国語・算数・社会・理科	算数・英語・ 作文(日本語)	国語・算数・ 社会・理科	国語・算数	国語・算数・社会・理科	

※配点や時間の詳細は6月下旬に発表予定です。

※第2回入試(2月1日午後)は、①15時集合、②15時50分集合の2つのグループに分けて実施します。

24. 2022年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度

● 2022年度 中学入試 第1回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	98%	99%	問題文に対する文章読解だけではなく、それに付随した「マニュアルの解釈」という発展的な問題を出題した。文や言葉の解釈がしっかりとできているかを、この大問のねらいとした。	本文に「演繹論理」「帰納論理」等の難しい語句が出ており、難解な文章のように感じられたであろう。しかし、その語句の意味を説明した箇所をしっかりと理解し、意味内容のまとまりを作ると全体像が見え、解釈ができるはずである。分からない内容・語句に出会ったときにそのまま読み進めるのではなく、じっくりと解釈することも必要である。
	b	19%	25%		
	c	89%	93%		
	d	94%	98%		
	問2	30%	35%		
	問3	51%	60%		
	問4	84%	90%		
	問5	67%	77%		
	問6	52%	59%		
	問7	25%	33%		
	問8	50%	57%		
問9	38%	45%			
2	問1 A	50%	58%	受験者層の実力を考慮し、受験生よりも年齢を重ねた人物が登場する小説から出題した。設問の型としては従来通り語句の意味と、主に視点人物の心情を説明するものがほとんどだが、表現に関する設問も1つ出題した。	問1Bの「面食らう」は受験生にとっては耳慣れない語句かと予想したが、ほとんどの受験生が正解できていた。語彙学習の成果が窺える設問となった。対して問10の表現に関する設問では正答率が全問中一番低い結果となった。インプットに加えてアウトプットも要求される昨今の状況に備え、ぜひとも表現に関する意識を高めてもらいたい。
	B	94%	97%		
	問2	94%	97%		
	問3	83%	88%		
	問4	78%	83%		
	問5	61%	68%		
	問6	82%	89%		
	問7	56%	67%		
	問8	83%	91%		
	問9	85%	90%		
	問10	43%	47%		
3	問1	40%	45%	例年どおり、詩歌と知識問題を組み合わせた融合問題として出題した。詩歌の読み取りはとかく軽視されがちな分野ではあるが、言葉一つ一つにこだわり、書き手と読み手のイメージを重ね合うという言語活動の基礎となるものなので、時間をとって学習してほしい。	全体的には非常によくできていた。ただ、知識問題に比べて詩歌の読解に関する設問の方が得点率が下がっている。詩歌の学習時間の少なさが一因かもしれない。問1は表現技法を理解したうえで、それが使われているかていねいに確認する。問5は季語やおもしろみを確認する。問7も単なる知識ではなく、作品中の表現に即して考える。以上の問いで差がついたようだ。問10①は漢字では「地」だがひらがなでは「じ」。かなづかいも問われている。
	問2	49%	57%		
	問3	48%	54%		
	問4	78%	84%		
	問5	78%	86%		
	問6	60%	65%		
	問7 ①	88%	93%		
	②	48%	53%		
	問8	90%	95%		
	問9	67%	75%		
	問10 ①	43%	48%		
②	69%	78%			
③	50%	57%			

● 2022年度 中学入試 第1回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	93%	96%	四則演算、単位換算、特殊算、整数、数列、図形と幅広く出題した小問集合。これらは、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	合格者の得点率と全受験生の得点率との間に大きな差は生じなかった。問8のような回転体の体積は例年出題しており、解答できるようにしておきたい。問6の得点率は全体的に低いため、合否には大きく影響しないものの、ぜひこの問題をとおして数列に対する視野を広げてもらいたい。
	問2	77%	85%		
	問3	91%	95%		
	問4	85%	91%		
	問5	77%	83%		
	問6	15%	21%		
	問7	77%	86%		
	問8	56%	68%		
2	問1	64%	76%	材料費に関する問題。袋、びん単位でしか買うことができないというのは、現実によくあることである。そのことを踏まえ、かかる費用を正しく計算したり、特殊算の計算を行うことができるかを問う出題である。	問1は袋・びんをいくつ買えばよいか丁寧に計算し、確実に正解したい。問2は問1の結果を用いる。問1に正解した受験生の多くは問2も正解していることになる。問1を解けた人とそうでない人では大きく差がでた大問であった。
	問2	40%	56%		
3	問1	88%	93%	平面図形の問題。相似および面積比に関する知識を活用できるかを問う、基本から標準レベルの問題である。面積比をもとに辺の長さに関する情報を読み取れるかが重要である。	問1の得点率が高いが、問2の得点率がそれほど伸びていないところを見ると、相似や面積比の知識を応用的なところまでは、十分に活用できていないことが見て取れる。基本を漏れなく押さえつつ、どこまで応用問題に取り組みめるかが大事である。
	問2	31%	44%		
4	問1	62%	77%	場合の数に関する問題。規則性を利用しつつ数え上げられるかを問う出題である。問1で石の置き方のルールを把握しているか、少ない場合の数を数えられるかを確認し、問2以降で数え上げのための規則性に気づき利用できるかを問う狙いである。	問1、問2で得点率が伸びていない印象がある。問1はもちろん、問2もすべて書き出すことができるほどの場合の数である。樹形図や(1、4、7)といった表記ですべての場合を書き出せるように練習しておくこと、漏れや重複なく数え上げることができ、規則性にも気づけるようになるだろう。
	問2	56%	75%		
	問3	39%	56%		
5	問1	69%	83%	直方体の容器に四角錐と水を入れたときの体積比や高さの比に関する問題。水の量や容器の容積などを的確に数値で表しながら、問題の状況を把握し、高さの比や体積比といった立体図形の計量を行うことができるかを問う出題である。	最後の大問ということもあり、解く時間がなかった受験生もいたとは思いますが、問1は確実に得点しておきたい問題である。問2、問3は断面図を描き考察することで、解答の方針を立てることができるだろう。
	問2	25%	40%		
	問3	36%	52%		

● 2022年度 中学入試 第1回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 1	94%	95%	地球温暖化問題に対する世界的な取り組みが急速に進んでいる。時事的テーマに対する受験生の関心度ははかることをねらいとした出題とした。	日ごろよりニュース報道に関心を持って接しているかどうかをはかる出題(問6・問7)、基礎的事項を正確に理解できているかをはかる出題(問2・問3)の正答率が低かった。学習内容の暗記ではなく、理解を掘り下げる学習を心がけてほしい。
	2	95%	98%		
	問2	24%	25%		
	問3	26%	28%		
	問4	65%	70%		
	問5	83%	88%		
	問6	7%	6%		
	問7	38%	40%		
2	問1	67%	71%	基本的な歴史的知識を土台にして、答え方の条件を例年よりもやや複雑にして出題した。古代、中世、近現代に関する人物をテーマにして、その周辺事項を確認することを主眼としている。	全体を通してよくできている。問5の正答率が低くなっているが、「すべて選ぶ」と条件が厳しくなっているだけでなく、求められる人物に関する知識も多かったのが原因と思われる。他の設問で確実に正解しておきたい。
	問2	64%	71%		
	問3	34%	41%		
	問4	63%	63%		
	問5	11%	12%		
	問6	80%	84%		
	問7	80%	89%		
	問8	63%	72%		
	問9	87%	91%		
	問10	77%	84%		
3	問1 1	89%	93%	社会的事象を理解し、読み解く知識、力として日頃の学習を生かしているかを問うことを出題の基準としいる。ニュースに興味を持つ姿勢、そこから何かを感じ考える感性をもつことを重要視したいと考えている。また、図、表などから読み解く力も日常生活から養いたい。「新聞は繰り返し自分の速度で情報を取り入れることができる媒体」なので様々な学びに波及すると考えられる。そのような点を踏まえて出題内容を精査した。	概ね予想通りの正答率となった。社会的ニュースについて学んでいることが問1～3の正答率に表れている。問4はやや難易度が高く正答率が約50%となった。問5、6の正答率がポイントとなったと考えられる。文章を読み解く力が社会科においても求められることとなった。
	2	83%	89%		
	3	84%	88%		
	問2	73%	78%		
	問3	95%	98%		
	問4	45%	56%		
	問5 (1) ABD	55%	61%		
	(1) C	58%	66%		
	(2)	31%	31%		
	問6 (1)	75%	79%		
	(2)	85%	90%		
	(3)	30%	34%		
	問7 A	93%	95%		
B	46%	51%			
問8	52%	57%			

● 2021年度 中学入試 第1回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	85%	92%	人体の臓器の働きについての理解を求める問題を出題した。知識問題だけでなく、背景の理解を問うような問題、文章の読み取り、計算問題などを満遍なく出題した。	問1、3の知識問題、問4の単純な計算問題はよくできていた。問5、6の文章や背景を理解する問題については正解率が低く、文章読解が苦手な傾向が見られた。
	問2	68%	74%		
	問3	96%	98%		
	問4	86%	92%		
	問5	26%	36%		
	問6	59%	72%		
	問7	53%	60%		
2	問1	95%	97%	天体に関する基礎的な知識を問うとともに、与えられたデータからどの値を利用するかをその場で考察する問題とした。また、計算力が備わっているかもねらいの一つとした。問6が問7のヒントになっていることにも気付いてもらいたい。	基本的な知識はしっかり学習していることが確認できた。計算については桁数が多かったため、一桁ずれている解答が見られた。工夫して計算することを意識してほしい。問6はもっとも正答率が低く、合格者と不合格者との差も大きかった。
	問2	93%	95%		
	問3	94%	96%		
	問4	74%	78%		
	問5	66%	72%		
	問6	26%	33%		
	問7	43%	50%		
3	問1	22%	26%	化学反応において、反応した際の生成物、量的関係を理解しているかどうかをみている。基本的な知識が身についているか、実験結果から必要な情報を読み取り、比例計算などを用いて計算が出来るかどうかを問うている。	問1は、重曹の反応が難しかったようである。中学入試では頻度が低いのかもかもしれない。問2は、日常生活における化学的事象に興味があるかないかを問うているが、受験生には難しかったようである。問3は、頻出問題でよく出来ていた。問4・5は、計算式は簡単であるが、正答率は予想より低かった。問6も、予想より正答率が低かった。化学分野は計算が煩雑になりがちなので、後回しにした結果、時間が足りなくなるのではないかと考えられる。
	問2	13%	14%		
	問3 A	88%	92%		
	B	91%	95%		
	問4	41%	52%		
	問5	33%	46%		
	問6	9%	15%		
4	問1	65%	75%	<実験1>はグラフ、<実験2>は表の実験結果から規則性を見つけて熱量を求めていく問題である。<実験3>は水が油に変わっても、問題文を理解し<実験2>の内容が応用できるかを確認したかった。	グラフ、表の値を読み取り計算していく問題は比較的できていた。問3のように、表の結果からわかることを選ぶ問題は考えていたよりも正答率が低かった。また、理科の最後の大問ということもあり解答を出すところまでたどり着けない受験生も多かったように感じた。
	問2	43%	53%		
	問3	46%	59%		
	問4	55%	64%		
	問5	57%	69%		
	問6	35%	47%		
	問7	26%	37%		

● 2022年度 中学入試 第2回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	94%	96%	語句の意味をひとつずつ取りながら筆者の主張を丁寧に読み解いていくというオーソドックスな形を心がけて出題した。当てはまるものをすべて選ぶ問いや、図からの読み取りを入れるなど、一問一答形式のみにならないようにも心がけた。	全体的に文章の内容はしっかりと読み取っていたと感じている。解答をすべて選ぶ問題も正答率は高かった。しかし、図から筆者の主張を読み取る問題は正答率が低く、図から読み取る情報と、文章の流れからの筆者の主張を合致させることに苦戦したようだ。記述の問題も条件を明示したため、よく書けているものが多かった。
	b	97%	98%		
	c	97%	97%		
	d	96%	98%		
	問2	36%	45%		
	問3	81%	89%		
	問4	83%	91%		
	問5	80%	89%		
	問6	73%	81%		
	問7	7%	10%		
問8	49%	53%			
2	問1 A	25%	26%	物語文の出題は一場面を部分的に切り取ったものが多い。リード文から場面・人物関係などを的確につかみ読み始めるようにしたい。また省略などを意味する「―(ダッシュ)」や「……(リーダー)」といった記号にも登場人物の心情を読み取ることができると。物語を読む習慣が生きてくるような出題を心掛けた。	問1や問5の語句の意味の選択や空欄補充で予想以上に得点差が生じた。「たしなめる」「たきつける」といった語は語意に前後の状況を加味することが必要。問2の「来島京」の心情把握はリード文を含めてどのような状況に置かれているのかが理解できないと、難しかったかもしれない。逆に問8の「正岡子規」の顔写真を選ばせる新しい出題は予想外にできていた。教科書や国語資料集などの活用が日頃の学習に取り入れられていた結果と考える。
	B	76%	86%		
	C	78%	83%		
	D	24%	27%		
	問2	52%	49%		
	問3	67%	75%		
	問4	71%	80%		
	問5 I	48%	63%		
	II	70%	77%		
	III	28%	29%		
	問6	70%	75%		
問7	55%	64%			
問8	69%	80%			
3	問1	94%	96%	「言葉は 紙ヒコーキのようなもの」という比喻を理解出来れば、全体の解釈は容易である。問自体も特に難しいものはない。	全体的によい出来であった。問5のみ得点率がやや低めだが、詩全体の内容に関する問いであり、このあたりの問題がしっかりと正解できる力をつけてほしい。
	問2	77%	82%		
	問3	83%	85%		
	問4	97%	98%		
	問5	54%	62%		
4	象形	25%	32%	漢字の成り立ちなど余計な情報に思えるかもしれない。しかし、5～6種類しかないのも、パターン化すれば逆に効率よく勉強することができるはずだ。特に部首と音符の組み合わせである形声を意識しよう。	組み合わせる字はくり返し使わず、答えの数しかないという条件だから、どの字がどの種類かというところまではわかったようだ。しかし、あとは語彙力の問題で正しい語を作ることができていなかった。
	指事	17%	21%		
	会意	25%	32%		
	形声	20%	29%		

● 2022年度 中学入試 第2回・グローバル 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	93%	95%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認するための小問集合。 四則演算、仕事算、速さ、整数、場合の数、平面図形の計量、立体図形の計量の基本的な処理を問う問題である。	基本的でかつ典型的な問題が多かったため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。 問5の正答率は想定よりも低く、考え方が難しかった様子であった。問7は計算ミスによる間違いが多く、正確に計算できる力も合否に影響したといえる。
	問2	64%	78%		
	問3	95%	97%		
	問4	77%	89%		
	問5	25%	34%		
	問6	94%	98%		
	問7	42%	53%		
	問8	50%	60%		
2	問1	85%	96%	特殊算の基本的な問題と整数の要素を組み合わせた問題。 問3の整数の問題については、条件をしっかりと整理して、問題に合う状況を見つけ出せるかがポイントである。	計算問題についてはしっかりと解ける受験生が多く、比較的高い得点率となった。反面、条件を整理する必要のある問3については、うまく情報を整理できずに考え方の一歩めが見いだせない受験生が多かった様子である。
	問2	83%	92%		
	問3	20%	29%		
3	問1	77%	93%	本校でもよく出題される平面図形の問題。 平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。難易度は高くなく、標準的な問題である。	問1は面積比の基本的な問題であり、全体的な得点率は高かったが、合格者との得点率に開きがあり、合格のためには落とせない問題であったようである。問2は線分比の問題で、この問題も合格者と全受験生の間にはやや得点率のひらきがあった。一つひとつの比を丁寧に調べていければ正答へたどりつける問題であったので、得点率の差からも合否を分ける問題の一つであったようである。
	問2	62%	83%		
4	問1	43%	54%	数の規則性をテーマにした問題で、標準的からやや難易度の高い出題である。規則性を導き出すための試行がやや多く、規則を見出しにくい問題である。そのため、じっくりと検証することがポイントとなる問題である。	数の規則をテーマにした問題で、問2については規則を見出すことが難しい問題のため、得点率の低さは致し方ないところである。問1の問題については、想定よりもやや低い得点率となった。計算が複雑なものになることはないので、求め方が定まらない受験生が多くいたと推察される。問題文に忠実に考えることが大事であった。
	問2	16%	27%		
5	問1	78%	89%	容器に水を入れ、水面の高さの変化を底面との関係から考えていく問題。文章だけでなく、グラフを用いて変化の様子を考えることができるかがポイントであり、丁寧に変化の様子を計算で求めていくことが必要な問題である。	問1は基本的な問題であり、得点率も高かった。問2は、正解にたどり着くには、グラフの情報を読み取り正しく計算式を導くことが必要であり、合格のために必要な力を測る問題であったと言える。
	問2	49%	71%		
	問3	23%	35%		

● 2022年度 中学入試 第2回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1) a	93%	97%	日本国内の自然環境と産業に関する一般的な問題に加えて、我が国と経済的なつながりの深い国々に関する問題を組み合わせた。地理分野で求めている「図表を読み取って考える」ことに加えて「位置関係の把握」を意識して出題した。	基礎的な問題については概ね正答を導き出すことができている。一方で、問3(2)・問4(2)のように都道府県・都市、周辺諸国の位置関係を考察する問いは正答率が低くなった。様々な地域の事象の理解とともに、地図上の位置関係の把握にも努めてほしい。
	(1) b	75%	78%		
	(2)	44%	52%		
	問2 (1)	36%	49%		
	(2)	38%	41%		
	(3)	95%	99%		
	問3 (1)	68%	78%		
	(2) ①	50%	59%		
	(2) ②	45%	52%		
	(3)	82%	91%		
	問4 (1) f	87%	95%		
	(1) 理由	67%	82%		
	(2)	43%	53%		
(3)	99%	100%			
問5	42%	57%			
2	問1	62%	75%	感染症の歴史を問題文として提示し、その中で日本でどのような歴史が展開されてきたのかを問うた。時代ごとの正確な知識や、世界史の中の日本史という広い視野をもてるかどうかを見るための問題を出題した。	概ね合格者の方が10%程度正答率が高かったが、大きな差が見られたのは年代順の並べ替えや正誤判定の問題。一問一答のような知識の習得だけでなく、時代の流れ、時代背景などについても考察や理解を深めていくことが大切である。
	問2	74%	83%		
	問3	61%	77%		
	問4	81%	88%		
	問5	43%	54%		
	問6	11%	20%		
	問7	37%	51%		
	問8	69%	78%		
	問9	52%	65%		
	問10 A	94%	99%		
	B	82%	92%		
	C	91%	98%		
	問11	50%	61%		
	問12	50%	66%		
	問13	38%	52%		
問14	19%	26%			
問15	49%	64%			
3	問1 (1)	31%	38%	全体的に難易度を少し上げて作成した。日頃の学習内容を、新聞・ニュースなどを通じて興味、関心を持つことにつながる内容を問う出題を意識した。小学校の教科書レベルの基礎的知識の上にその応用力も重視した。ただ暗記するだけでは得点につながらない内容を出題している。	定番の問題の正答率が高いが、よく考えれば分かる問題の落とし(ミス)が散見された。EUのマーストリヒト条約のレベルは正解をしたいレベルと今後考えてもらいたい。いかに、日頃の勉強の派生を自宅学習とつなげることができるか、「社会教科=ただの暗記」という概念を払拭できるかが1つの鍵となる。
	(2)	60%	64%		
	問2	84%	91%		
	問3	20%	22%		
	問4 A	68%	80%		
	B	86%	93%		
	C	27%	35%		
	問5	39%	43%		
	問6	50%	59%		
	問7	31%	37%		
	問8	67%	69%		
	問9 D	2%	4%		
	E	96%	98%		
F	95%	98%			
問10	65%	73%			

● 2022年度 中学入試 第2回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	47%	64%	植物が昆虫に花粉の媒介を託す戦略について述べた長文を読んだうえで、基礎知識の確認(問1、問2)および、生物の特質を考察させる問題(問3、問4)を出題した。	2000字前後の長い課題文にひるまずに立ち向かい、とりわけ問3の内容一致問題はよく文意を理解したうえで推論できていた。合格水準では全問正解か1問ミスで切り抜けたかというレベルでの争いになっていた。各生物の特質をどこまで把握できているか、問1(1)(花びら・がくの目立たない植物の列挙)のようにノーヒントでいくつもの生物を検討すると実力差が出た。
	(2)(3)	75%	78%		
	問2	74%	81%		
	問3	27%	40%		
	問4 (1)	56%	58%		
	(2)	69%	73%		
	(3)	72%	83%		
	(4)	54%	61%		
	(5)	73%	80%		
2	問1	72%	88%	災害のひとつである台風について、基本的な知識を問いつつ、単位変換を行う桁の多い計算の処理能力をはかること、また問題文やデータを整理して結果を考察する力をはかることをねらいとした。	得点率はおおよそ想定通りではあった。しかし、問5[1]は表を見るだけで解ける問題だっただけに[2]の方が得点率が高いところを見ると図や表などからの情報収集力が身に付いていないように感じる。大学入試などでも図や表を用いた思考系の問題が増えていることもあり、今後、身に付けてもらいたい力である。
	問2	78%	91%		
	問3	90%	96%		
	問4	66%	72%		
	問5 [1]	39%	52%		
	[2]	45%	60%		
問6	45%	49%			
3	問1	97%	99%	小学校の学習内容としてなじみのある題材である「酸素の発生法」に関して、与えられた情報を理解して適切に考えを進めていけるかを問うた。	問1の正答率が非常に高い。頻出の用語(物質名)を問うものである。一方、問5はきわめて正答率が低い。これは濃度を問う問題であるが、リード文の流れを踏まえて計算をしなければならぬものである。誤答の大半は、リード文の内容を考慮せずに、道理に合わない誤った規則性から導いたと思われる値であった。素早いレスポンスができるように受験勉強をしてきたことはうかがえるが、さらに深く考える力を養ってもらいたい。
	問2	48%	68%		
	問3	60%	77%		
	問4	51%	63%		
	問5	5%	5%		
	問6	31%	41%		
4	問1	98%	100%	光の反射、屈折についての出題である。光の進み方についての基本事項、反射や屈折によって光の道すじがどのようになるか、見えることと光の道すじとの関係について問う内容となっている。	光の反射、屈折についての基本事項は多くの受験生が身につけており、光の道すじについて考えることができている。2枚の鏡に映る像についての考え方は受験生による差が見られた。全反射については、問題文の記述内容から判断する力を受験生には身につけてもらいたい。
	問2	73%	85%		
	問3	66%	78%		
	問4	73%	86%		
	問5	49%	66%		
	問6	83%	90%		
	問7	45%	61%		

● 2022年度 中学入試 第3回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	89%	93%	本文の文脈に沿って読み解き、キーワードの同値、対比を整理し、筆者が述べる主題を理解出来ているかを問う。記述については設問に対する文中の具体例を示し、その特徴をプラス面マイナス面、それぞれ整理してまとめられるかを問う。語句については標準的な設問としているが、一部、語彙力の深さを問うものもある。	語句の問題について標準的なものは概ね出来ているが、日常的には使わない語彙力の深さを問う問題では正解率は低かった。記述は設問自体は標準的なものではあるが、問われていることの整理ができていないものが目立った。本文全体の理解は概ね出来ているが、キーワードの同値、対比の整理が不十分な点が見られた。
	b	90%	89%		
	c	93%	98%		
	d	25%	34%		
	問2	50%	61%		
	問3	28%	35%		
	問4 X	57%	60%		
	Y	34%	35%		
	問5	16%	19%		
	問6	56%	64%		
問7	27%	34%			
問8	60%	66%			
2	問1 X	55%	70%	菊池寛の時代小説を題材にした。語彙はもちろん、表現的にもなじみがないという意味で、受験生には難しく感じられたかもしれない。「忠直卿」の心情を読み取ることが問いの中心であり、正答の根拠となる部分をきちんと探し出せるかに尽きる。	問5は「杞憂」本来の意味と異なるため、設問で誘導した。「懸念」が「心配」と同意であることに気づけたか。問7は忠直が望んでいることは何かを考えてみる。問9も問7と同様で「勇気」とは真実を知ろうとする思い、と考えれば正解に至るはずである。
	Y	76%	92%		
	問2	62%	78%		
	問3	54%	65%		
	問4	56%	77%		
	問5	30%	39%		
	問6	53%	63%		
	問7	22%	28%		
	問8	45%	51%		
	問9	10%	10%		
問10	22%	29%			
3	問1	38%	40%	表面上は難しくない言葉で紡がれた詩を出題した。ただ表面だけ見ていると主題がわからないかもしれない。また、詩は字数が少ない分、一つ一つの単語をしっかりと注視しないと情景が浮かびづらいということを認識させたい。	毎年出題されている表現技法の得点率が低い。また、ねらいの一つであった「一つ一つの単語を注視する」ということについては問4の得点率が悪いいため、取り組めていなかったと言うことだろう。概して選択問題であればなんとか答えを導き出せるが、記述問題になるとどのように答をまとめていくかがつかめていないようだ。
	問2	52%	60%		
	問3	46%	61%		
	問4 1	21%	25%		
	2	16%	20%		
問5	67%	81%			
4	問1 ①	56%	61%	読解力をあげるためには、いろいろな文章に数多く触れてもらうことが大切であり、読書はその最も有効な方法のひとつである。ここで取り上げた作品は一度は読んでおきたいものばかりである。	全受験生と合格者の得点率を比較すると、明らかに合格者の方が高いことがわかる。これは、合格者の方が読書量が多いということか。普段から本に接すること、そしてその積み重ねが国語力になるということであらためて意識したい。
	②	45%	61%		
	③	77%	86%		
	④	45%	58%		
	問2	11%	16%		

● 2022年度 中学入試 第3回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	95%	99%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認するための小問集合。 四則演算、仕事算、場合の数、整数、図形(立体・平面)と、基本的な処理を問う出題である。	基本的な問題を多く出題した。また、比較的典型的な問題が多かったため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。問5は問題文をしっかりと読んでいない受験生が多く、受験者・合格者とも得点率は低かった。
	問2	55%	81%		
	問3	83%	98%		
	問4	92%	95%		
	問5	29%	47%		
	問6	79%	92%		
	問7	91%	94%		
	問8	86%	95%		
2	問1	73%	86%	本校でよく出題されるつるかめ算などの基本から標準的な問題、また、整数問題を加えた応用問題である。 難易度としては比較的中学入試の典型的な問題を中心としているため、問題の内容を理解して計算できる力を持っているかを問う出題である。	切手は5種類あるが、それぞれの問題において5種類を使っているわけではないので、複雑ではない。ただし、問3は問2が解けないと進むことはできないため、問3の正解率が下がった原因にもなった。しかし、合格者の正解率は悪くなく、合格を分ける問題となった。
	問2	73%	87%		
	問3	39%	63%		
3	問1	57%	84%	本校でもよく出題される平面図形の問題。 平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方が理解できているかがポイントとなる。比の合成と面積比の標準的な問題である。	問1で3つの比を出題し、手がつけづらい問題と予想したが思ったほど悪くなかった。また、問2の方が2つの線分比であるため、難しくないと印象だったか、予想を上回る出来であった。一方で問3のような求積は、複雑になると手がかかなかったようで、正解率は低かった。
	問2	63%	87%		
	問3	7%	13%		
4	問1	68%	87%	本校で出題されることがあまりない質問から数を予想するという数の理論の問題。 問2は3つの質問からいくつかの場合を予想して考えるという整数と場合の数を混ぜた問題であり、応用力を問う出題である。	問1は基本的な問題であるが、そもそも問題の意味を理解しているかどうかで正解・不正解が分かれた。また、問2は全通り挙げていくと時間がかかったり、ミスが出たりする可能性が高く、正解率は良くなかった。
	問2	6%	10%		
5	問1	52%	67%	立方体や直方体の展開図をテーマにした問題。6面の展開図を考える問題と、できるだけ体積が小さくなるように切りとるとい、難易度が高く、かつ求める思考力も高い問題とした。	問1は立方体の展開図が頭の中になれば、問題を読み取れた受験生は解けたようである。しかし、問題の意味が分からない受験生は手も足もでなかったようだ。また、問2は切り取るマス目の数が3つと分かれば、あとは最も小さい体積を求められるかどうかである。しかし、時間がなかったのか正解率は低かった。
	問2	13%	12%		

● 2022年度 中学入試 第3回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	51%	67%	例年の出し方に沿って、都道府県をテーマに基本的な知識を確認することを主眼とした。	都道府県庁所在地名は記述させる設問は、平易な漢字だったため、正答率が高くなっている。全体を通して大きく正答率が低くなった設問はないため、この大問1では8割を目標としておきたい。
	(2)	78%	90%		
	(3)	71%	89%		
	問2 (1)	38%	54%		
	(2)	76%	81%		
	(3)	90%	96%		
	問3 (1)	55%	65%		
	(2)	61%	78%		
	問4 (1)	57%	58%		
	(2)	77%	92%		
2	問1 (1)	70%	75%	奈良時代から明治・大正時代までの基本重要事項を中心に出题した。歴史的出来事の内容理解を確認するとともに、中心人物等については正確な記述力を求めた。	一般的な基本重要問題では高い得点率となったものの、図版から人物を特定する問題や寺院の所在地や特産品の産地に関する問題ではいずれも低い得点率となった。日頃から教科書や資料集の図版や史料などにもしっかりと目を通し確認しておきたい。
	(2)	74%	90%		
	問2 (1)	74%	83%		
	(2)	84%	94%		
	問3 (1)	58%	72%		
	(2)	14%	18%		
	(3)	46%	63%		
	(4)	72%	84%		
	問4 (1)	19%	22%		
	(2)	75%	84%		
3	問1	20%	25%	国内外が抱える問題点などについて幅広い知識を問うことを目的として出题した。社会的な出来事に対して日常的に興味関心を持っているかを問うことを主眼とした。	比較的基本的な知識と正確な記述力を問う問題であったので、得点率は良好であった。そのため、基本事項での失点は、大きな得点差となった。基本事項の反復学習と日常的にニュースなどに関心を持つことが大切である。
	問2 (1)	51%	60%		
	(2)	67%	81%		
	(3)	26%	36%		
	問3	60%	73%		
	問4	13%	17%		
	問5	73%	84%		
	問6	49%	52%		
	問7	54%	59%		
	問8	95%	99%		
問9	94%	98%			
問10	77%	84%			

● 2022年度 中学入試 第3回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	31%	41%	動物は肉食性、草食性、雑食性に大きく分けることができる。しかし、食べているものが異なるのに、どの動物の体にもタンパク質を主とする筋肉や脂肪などが含まれているのはなぜだろうか。なんとなく見落としてしまうような生き物の不思議について普段から関心を持ち、考えることを大切にしているか問うてみた。	理科の「用語」についてはよく覚えられている。しかし、「しくみ」についてまで理解をしようという学習が不足しているのか、説明を求められる問題になると、とたんに答えられなくなる傾向が毎年のように見受けられる。特に、問3と問4については予想していた正答率よりも低く、意外な結果となった。
	問2	64%	81%		
	問3	34%	40%		
	問4	33%	37%		
	問5 記号	94%	99%		
	理由	42%	49%		
	問6	7%	13%		
	問7 名称	7%	17%		
	働き	13%	20%		
2	問1	63%	73%	地図に示された火山島と海山の位置と形成年代の関係から、プレートの動く方向と速さを答える問題である。また、海洋で形成される火山と岩石の性質を理解しているかを問うている。	緯度と経度から地図の方位を読み取り、火山島や海山が動いた方向を正しく推測することが正解への近道である。また、玄武岩の性質と岩石のしくみの関係、及び火山の形状については比較できていた。
	問2	47%	57%		
	問3	23%	34%		
	問4	37%	57%		
	問5	46%	63%		
	問6	51%	63%		
	問7	82%	90%		
3	問1	97%	100%	塩酸の性質とその反応性にまつわる問題。 問1～問5は知識を問うた。 問6は反応から生じる物質や気体の量に関する計算問題で、表やグラフから適切に情報を読み取り、表・グラフ間の情報をつなぎ合わせることができるかを問うた。	性質と反応性に関する知識は非常に高く、基本的な知識を身につけていることは重要であるといえる。問3に関しては、中学入試においては頻出の内容ではなかったため、差がつきにくかった。 問6は、問題文の情報、表・グラフの情報を適切に繋ぎ合わせ、変換する情報整理能力が必要で、差が出た。問6(3)は反応の余りが考慮できずに誤答するケースが多かった。
	問2	86%	92%		
	問3	39%	42%		
	問4	81%	88%		
	問5	81%	94%		
	問6 (1)	78%	93%		
	(2)	39%	61%		
(3)	24%	35%			
4	問1	47%	60%	電気の分野における基礎的な知識を問うだけではなく、与えられた規則性を用いて、応用することができるかをねらいとした。また、文章を素早く正確に読み取れるかもこの問いのねらいとした。	電気分野を苦手とする受験生が多いように感じた。問1の正答率が低いことも気にかかる。電流の流れる向き、電圧計と電流計の接続の仕方、電池のプラス、マイナスなどは正確に覚えましょう。また、見慣れない問題でも問題文をしっかりと読み、与えられた条件を把握しましょう。
	問2 (1)	24%	29%		
	(2)	26%	33%		
	(3)	7%	19%		
	(4)	7%	17%		
	問3 (1)	23%	34%		
	(2)	4%	11%		
(3)	8%	13%			

● 2022年度 中学入試 第4回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	87%	94%	そう難しくはない文章だが、しっかり筆者の意図が捉えられているかどうかは鍵になるように作問をした。問9の記述問題については「文章の読み取り→それを書く作業」を普段からやっている人が点数をとれるレベルに設定した。漢字も単に教育漢字の範囲内の難しい文字を出題するのではなく、語彙のレベルを上げた。	全般的に記号問題は正答率が高い。傍線部と離れた部分の抜き出し問題の得点率が低い。難易度が高いと考えて出題した問いよりも、比較的易しい問題で合格者と不合格者の差が大きい傾向が見られる。基本的な問題をしっかりと得点することが合格につながるということだろう。
	b	79%	89%		
	c	17%	32%		
	d	89%	94%		
	問2	10%	24%		
	問3	59%	81%		
	問4	74%	94%		
	問5	65%	74%		
	問6	48%	75%		
	問7 (1)	53%	66%		
	(2)	48%	66%		
問8	63%	84%			
問9	29%	41%			
2	問1	35%	45%	親子二人の会話を中心とした文章。心情を問う問題を多く出題した。解答する際にはリード文の前後に書かれている状況を正確に読み取り、根拠を踏まえたものを答えてほしい。直感による自分勝手な答え方では間違えてしまう問題を作問した。	全体的に難易度もそこまで高くなく、点数は取れていた。問1の語句の問題の正答率が低い。普段の生活で気になる言葉は調べる習慣を身につけてほしい。問8(2)は情景描写でありながら心情の反映になっていることをつかむことが必要。
	問2 I	75%	79%		
	II	78%	92%		
	問3	74%	81%		
	問4	93%	100%		
	問5	38%	50%		
	問6	69%	82%		
	問7	69%	81%		
	問8 (1)	68%	82%		
(2)	55%	66%			
3	問1	58%	79%	詩の連ごとのつながりや展開から作者が表現するイメージの変化が読み取れるかを問う。キーワードの同値、対比を読み取れているかを問う。基本的な詩における技法を理解しているかを問う。詩の大きなテーマを読み取れているかを問う。	基本的な詩の技法は概ね理解できている。詩中におけるイメージの変化については正確に読み取れているとは言えないように感じる。あわせて詩のテーマについての理解も半数以下にとどまっており、不十分だったように思う。キーワードの同値、対比の整理は合格者は出来ているように感じる。
	問2	60%	71%		
	問3 A	41%	47%		
	B	81%	90%		
	問4	29%	48%		
	問5	38%	40%		
4	①	55%	71%	本校の定番とも言える出題である。部首は漢字を構成する基となるものであり、部首を理解することによって効率的に漢字を学習できる。その点を十分に理解してもらうことを意図した。	「うかんむり」は「屋根をかぶせた家」のこと、「のぶん＝ぼくによろ」は「棒を手にとってたくさま」を表し、「にく(づき)」はその名のとおり「月」ではなく「肉」の意味を表す、など部首の意味がわかっていないと正解することは難しい。
	②	40%	58%		
	③	30%	50%		
	④	3%	6%		
	⑤	46%	56%		

● 2022年度 中学入試 第4回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	98%	100%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、商と余りからもとの整数を決定する問題、図形(平面・立体)の基本的な処理を問う出題とした。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	得点力が極端に低いものではなく、よく解答していた。ただ、問5や問8など合格者と全受験生との得点率の差が大きい問題が多く見られた。特殊算や立体図形への対応力が合格するために必要だと感じられる。
	問2	75%	90%		
	問3	92%	95%		
	問4	93%	98%		
	問5	68%	92%		
	問6	78%	94%		
	問7	95%	100%		
	問8	60%	76%		
2	問1	82%	94%	多面体の辺の本数と頂点の数を求めさせる問題であり、会話文形式の出題とした。問1、2ともに途中式を考えさせる問題とし、辺の本数と頂点の数を暗記するだけでなく、理論的に求められるかを問う出題である。	問1は正十二面体の辺の数を求める計算式を問う出題であり、全体的に良く出来ていた。問2は特別な立体の頂点の数を求める問題であったが、答えは正解で途中式が不正解の受験生が散見された。暗記に頼り、理論的に考えることが難しい受験生が多い印象を受けた。
	問2	45%	69%		
3	問1	94%	98%	仕事算の標準レベルの問題である。問1は基本的な仕事算の問題、問2はそれぞれの機械を使わなかった時間の比から実際の時間を求めていく問題、問3は問2で求めた時間を利用して機械Aを使った時間を求める問題である。	問1は全体的に良く出来ていた。問2、3は比を絡めた問題であり計算も複雑であるため、得点率が低くなってしまった。全受験生と合格者との差が大きい問題であるので、計算力も含めて確実に得点できるかが合否のカギになった。
	問2	17%	44%		
	問3	13%	35%		
4	問1	90%	97%	基本的な平面図形の計量問題で、入試説明会でもポイントに挙げた、比を絡めた出題である。問1は平面図形と比に関する典型的な問題、問2は補助線を引き、比を求める問題、問3は問1、2を利用して全体に対する四角形の面積の割合を求める問題である。	問1は全体的に良く出来ていた。問2、3に関しては合格者の得点率は高く、合格を目指す受験生は得点しておきたい。問題内容は典型的なものであるため、過去問などをとおして力をつけてもらいたい。
	問2	74%	95%		
	問3	29%	69%		
5	問1	0.7%	2%	タイルを敷き詰めてできる模様の場合の数を求める問題。すべてのパターンを漏れなく数え上げることができるかがカギとなる。問1は左右対称の模様のパターンを考える問題、問2は左右対称で上下対称ではない模様のパターンを考える問題である。	問1は【図2】の左半分のみを考えればよいことに気付けるかがポイント。条件整理が難しい問題であったため、得点率を下げた。問2は問1を利用して考える問題であるため、まずは問1を確実に得点することを目標に力をつけてもらいたい。
	問2	0.5%	2%		

● 2022年度 中学入試 第4回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	67%	85%	日本の農業・地形・海流・自然災害・人口・都市に関する基本問題。自然災害に関しては、時事問題的要素を加えた出題となった。データから正誤を判別する力を確認する問題も出した。	全受験生の得点率が約55%となり、全体的には標準的難易度であったと思われる。ただし、時事問題的要素を含む自然災害に関する問題では、得点率が大きく低下した。日頃から新聞やニュースなどに幅広く注目しておきたい。
	(2)	96%	98%		
	(3)	57%	74%		
	問2 (1)	48%	52%		
	(2)	59%	73%		
	(3)	87%	95%		
	問3 (1)	70%	84%		
	(2)	41%	45%		
	(3)	1%	2%		
	問4 (1)	56%	82%		
	(2)	56%	73%		
	(3)	79%	90%		
(4)	19%	34%			
(5)	73%	85%			
(6)	49%	81%			
2	問1	57%	77%	歴史分野の出題ではあるが、地理的知識を必要とする問題も加えた。地理、歴史、公民を分けて考えるのではなく、分野の融合を意識して社会の勉強に取り組んでいるかを意識して出題した。難易度が高いものも多いが、いかに易しい問題で得点を挙げられるかがカギとなる。	問7は想定外に正答率が低く、問題文をしっかりと読まずに「琉球王国」と書かれた誤答が多かった。問9の桂太郎は「桂」の漢字間違いが多かった。人物名や歴史的出来事は正確な漢字で書けるように日頃から意識して取り組んでいきたい。
	問2	43%	68%		
	問3	28%	50%		
	問4	16%	15%		
	問5	35%	47%		
	問6	35%	52%		
	問7	17%	24%		
	問8	76%	79%		
	問9	26%	35%		
	問10	30%	29%		
	問11	53%	65%		
	問12	46%	45%		
	問13	51%	60%		
3	問1 1	95%	100%	この一年間の出来事を通じて基本問題と時事問題を出題した。基本問題は日本国憲法に規定されている三権の仕組みを中心に政治分野を確認した。時事問題は衆議院議員選挙やオリンピックといった話題性の高い内容を扱い、基本問題に関連付けてその理解度を確認した。	日本国憲法に関する問題は毎年のごとく出題しているため、過去問題の学習は得点に大きな影響を与えた。日本国憲法に関する問題では、国会や裁判所の仕組みなど数字を伴う内容や類似した要素が多い内容は、きめ細かな学習が必要となった。時事問題に関しては、アウンサンスーチー、イギリスのEU離脱、COP26など話題性の高い内容や基本問題に関連した問題を出題したため、合格者の正解率が非常に高かった。
	2	94%	97%		
	問2	57%	68%		
	問3	29%	35%		
	問4	56%	68%		
	問5	86%	84%		
	問6	59%	71%		
	問7	74%	79%		
	問8	33%	55%		
	問9	48%	55%		
	問10	59%	79%		
	問11	90%	95%		
	問12	72%	84%		
	問13	34%	39%		
	問14 (1)	63%	79%		
(2)	84%	89%			
問15	71%	84%			

● 2022年度 中学入試 第4回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	90%	94%	植物の生育と植生の発達を結び付けて考察する課題文を読んだうえで、植物の生育に関する基礎知識(問1)と考察(問2、問4)、植生の発達に関する地理的な知識問題(問3)、月平均気温をもとにした統計的処理に基づく考察問題(問5、問6)を出題した。	問1、問3のような基礎知識の理解は万全。問2のような文意に沿っての簡単な推論をしっかりできるのは立派。問4では条件設定にあわないものが多かったのが残念。ここは点差がついた。一息ついて見直してみしてほしい。問5、問6のように即答できない問題では、択一式問題ながら合格答案の執念が他を圧倒していた。諦めは合格に向けて一番の敗因であることを再認識させられた思いである。
	問2	89%	97%		
	問3	93%	94%		
	問4	36%	50%		
	問5	46%	74%		
	問6	21%	32%		
2	問1	87%	94%	地球の公転運動と地軸の傾きから、地球の公転半径の違い、季節、見ることのできる星座を理解できているかを問う問題である。また、算数で学んだ内容を活用して地球の大きさを求める問題である。	全体的に良くできていた。地球公転運動についてはほとんどできていた。地軸の傾きと季節の関係については、しっかりと押さえておきたい。太陽の南中高度は、季節によって変化することを理解することが正解への近道である。
	問2	65%	73%		
	問3	81%	90%		
	問4	76%	82%		
	問5	47%	69%		
	問6	47%	66%		
3	①	35%	53%	会話文から必要な情報を取り出して理解し、応用させる力を見る問題である。現象の原理から論理的に考えていくことを求める。圧力の考え方はイメージが難しいかもしれないが、自然現象を粒子の観点からとらえる感覚を日ごろから持ってもらいたい。	これまでに解いたことのない問題あるいは初めての考え方に対しても、その原理から適切に現象をとらえることが必要である。①および②は単位の変換などでミスが出やすく、注意が必要である。③以降は、知識の有無や計算力を問うものではなく、文章を読んで原理を理解できたかどうか重要となる。特に、④は丁寧に誘導がされているので、確実に解いてもらいたい問題であった。
	②	18%	35%		
	③	42%	61%		
	④	16%	40%		
	⑤	42%	79%		
	⑥	4%	13%		
4	問1	79%	87%	ばねによる振動と、一定の速さで円運動する物体を比較する問題。ばねの性質はもちろんだが、初めての設定に対して、文章を読んで理解する力、考える力を必要としている問題である。	問1、2の基本問題に関してはよくできていた。問3以降、見慣れない円運動との比較の問題になるが、文章を読んで理解はできても、それを踏まえて解答を得るまでの力を発揮できた受験生は少なかったようだ。想像力と考える力を身に付けてもらいたい。
	問2	61%	84%		
	問3	27%	44%		
	問4	19%	35%		
	問5	48%	73%		
	問6	55%	82%		
	問7	13%	24%		
	問8	7%	18%		

● 2022年度 中学入試 帰国生 AB方式 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	58%	70%	子どもの本離れについて述べた文章。すぐれた本の持つ良さとは、読者が想像力をはたかかせながら先の展開を予測できる。そして、そういった本を子どもに紹介し、読ませることが大人の役割である、としている。さらに、ダイジェストについても述べており、「真実味」を欠いた作品を批判しているが、こうした内容が読み取れるかが出題のポイントである。	問1b「助長」は語彙力がないと正解が難しかったようである。問3は抜き出し問題だが、指定された条件を十分に確認していないケースがかなり見受けられた。問5の記述問題は「大人の怠慢」とは何かを考えたうえで、そうならないために、どうすればよいかを考えるという過程が必要だが、問題の意図が理解出来ていない受験生が多数いた。問7はキーワード「真実味」を手がかりにして探すことで正解にたどりつく。
	b	21%	27%		
	c	62%	74%		
	d	68%	77%		
	問2	74%	79%		
	問3	39%	42%		
	問4	61%	69%		
	問5	18%	23%		
	問6	54%	61%		
2	問1	35%	47%	怪我で挫折した元プロ野球選手と、幼いときから彼を知っている主人公。二人の心理・心情を読み取る問題である。それは言葉でははっきり示されているわけではなく、「水かまきり」をはじめとする比喩などで表されている。小説の表現方法について考えてほしかった。	気持ちそのものを問う問題はできていたが、表現に関する問題は難しかったようだ。問1は倒置になっている次の文を含めて考える。問5は日本語の「が」と「は」の問題。普段使い分けられているのに、説明は難しい。問6は、生きていると気づいたCの時点为正解とした。問7は「当てはまらないもの」を選ぶ問題。本文だけでなく、問いも注意深く読んでほしい。
	問2	78%	83%		
	問3	64%	70%		
	問4	88%	94%		
	問5	37%	46%		
	問6	29%	34%		
	問7	32%	36%		
3	問1	33%	33%	短いことばからイメージの重なりを読み取り、作者の言いたいことをつかむことができるかが詩の読解のポイント。ここでは「春」という季節が「万物」つまりすべての動植物にとってすばらしい季節であることを詩中の表現から読み取ってほしい。中盤の「いい季節になった」というのが作品全体の主題で、末尾の力強い表現とともに作者のメッセージをつかみたい。	問1は難しかったようだ。「節」という語は「節句」のように季節の変わり目のお祝いのことだが、詩全体のテーマから考えてほしい。問3は表現技法とその効果についての設問だったが、その技法が使われているかどうかかわかれば判断できる問題。よくできていた。問4は特に末尾の力強い表現と、「春」という季節の意味を読み取ることがポイントだった。
	問2	59%	63%		
	問3	71%	76%		
	問4	46%	53%		
4	問1 ①	73%	77%	同音異義語と漢字の部首名を答えさせる知識問題。漢字の学習においては必須の分野であり、問いもきわめて基本的なものである。	本校の定番とも言える出題であり、過去問の学習をとおしてその傾向をつかんでいる受験生も多かったためか、全体的に高い得点率となった。
	②	91%	96%		
	③	76%	83%		
	④	73%	79%		
	問2	63%	70%		

● 2022年度 中学入試 帰国生 AB方式 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	92%	95%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題をとおして、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3～6は特殊算を幅広い分野から、問7・8は図形の問題を出題した。	昨年度に比べ、全体的に出来が良かった。基本的な力を見る問題が多かったが、昨年と比べ抽象的な問題(集合や場合の数)にも手をつけやすかったようである。一方で、問6のような受験算数特有の線分図や面積図を用いた問題の出来が思ったほど良くはなかったようである。
	問2	91%	95%		
	問3	67%	81%		
	問4	88%	92%		
	問5	64%	76%		
	問6	45%	61%		
	問7	60%	76%		
	問8	45%	59%		
2	問1	97%	98%	3つの管から水を出し入れする問題だが、基本的な仕事算の問題である。問2は特殊算を知らなくても解けるような問題構成にした。	基本的な仕事算をはじめとした特殊算ができれば、受験算数においては基本的な問題であり、取り組みやすい問題であったため、出来はかなり良かった。
	問2	74%	90%		
3	問1	88%	97%	本校の入試問題でよく取り上げられる旅人算の問題である。電車と2人それぞれの速さから様々な量を求める問題であり、基本的な計算を主としている。	受験算数においては標準的な内容であり、取り組みやすい問題であり、昨年度より出来はかなり良かった。また、文章や図から必要な情報をいかに早く正確に取り出せるかで、出来が分かれると思ったが、全体的によくできていたようである。
	問2	78%	92%		
	問3	54%	73%		
4	問1	71%	85%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、三角形を題材にした。問1・問2は線分比、問3は面積の割合を求める問題である。平行線の補助線やメネラウスの定理など、図形に関する性質の定着度合も受験生に求めた。	昨年の正六角形と同様、本校がよくテーマとしている平行四辺形をもとにした線分比や面積比とは異なるが、平行四辺形で練習をしている生徒は問題なかったようで、今回の合否に大きく影響した問題だった。問2のような連比の問題は、ここ数年の受験生は少し苦手に行っているようで、今回もその傾向が表れたようである。
	問2	34%	51%		
	問3	28%	44%		
5	問1	34%	49%	箱の積み重ね方の手順の数を求める問題。手順の例を出し、それをもとに、個数を増やしていったときに、規則を見つけて数えることができるかどうかという、問題の文章から推測できるかどうかを問う。	問題文のルールを理解は難しいが、効率よく処理できているかどうかで出来が分かれた。この問題までに早く解き終わっていれば、落ち着いて数え上げることができたはずである。さらに問2は問1の状況をうまく利用できているかで出来が分かれた。
	問2	11%	19%		

● 2022年度 中学入試 帰国生 A方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	Q1	55%	67%	英検準1級程度に必要とされる基本的な語句を出題。文脈の中で適切な語(句)選択し、綴れるのかを狙いとした。レベルは例年通りを心掛けた。選択式が6問。記述式が4問であった。	概ねできている。文脈の中で適切な語(句)を選択できている。正答の語の抽象度が上がると少し正答率が落ちる。6年後の大学入試を踏まえると綴る練習も怠らないで欲しい。
	Q2	66%	77%		
	Q3	55%	59%		
	Q4	57%	64%		
	Q5	57%	74%		
	Q6	29%	30%		
	Q7	43%	61%		
	Q8	84%	95%		
	Q9	17%	23%		
	Q10	68%	77%		
2	(1)	59%	74%	2者による長めの英会話の文を読み、その内容を理解した上で、選択肢から空所を埋めて全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は十分相関性があり、妥当な結果であった。選択式問題なので、小学6年生としてある程度ロジカルな思考ができる帰国児童にとっては容易な問題が中心であり、合否の点差は主に英語理解力の差と考えられる。(2)はfineの二義的な意味『細かい』の知識が必要で、やや難しかったかも知れない。
	(2)	10%	11%		
	(3)	62%	80%		
	(4)	42%	52%		
	(5)	74%	89%		
	(6)	59%	80%		
	(7)	64%	79%		
	(8)	48%	62%		
	(9)	50%	56%		
	(10)	52%	62%		
3	Q1	66%	81%	文全体の構造を正確に把握する問いと、基本的な文法事項を理解したうえで語句整序する問題の2種類であった。知識よりは英文を正確に理解できているのかを確認する基本的問題が並んだと言えよう。	英文を正確に読み進めていくには文構造の理解が欠かせない。感覚で読むのではなく一つ一つの文法事項を理解したうえで読解にも臨んでほしい。今回の問いでは動詞の用法の理解不足が想定以上に感じられた。基本的問題が多かったので5問共に正解してもらいたいと感じた。
	Q2	48%	61%		
	Q3	62%	72%		
	Q4	60%	73%		
	Q5	70%	91%		
4	A (A)	37%	44%	クジラやイルカが海中でどのようなコミュニケーションを取っているかについての説明文であり、人間と比較対照をしながら説明されている。また、海中における人間の使用する機材による騒音が海中生物のコミュニケーションの障害となっているという環境問題にも触れており、論理の流れを理解するとともに時事問題への関心が求められる。	設問Aの(A) (B)は文の流れを決定づける表現、いわゆるディスコースマーカーを選択する問題。設問Bは本文の内容と一致するものを選択する問題。なじみやすい内容であったため文章理解の方は比較的高得点となった。一方ディスコースマーカーの問題は「主張→具体例」「理由→結論」などの因果関係をつかむことに、やや苦戦していたようであった。
	(B)	62%	77%		
	B	70%	84%		
5	Q1	61%	68%	すべて記述式の長文問題である。全文和訳や指示された内容を答える問題を通じ、あえて日本語の運用能力も問うた。また、長文中の語彙レベルはあえて低く設定しているものの、指示語が何を指しているかや、話の流れをしっかりと理解し日本語で説明できるかが正答の鍵となる問題である。	本文内の語句に難しいものはなかった。もし知らない語句があったとしても前後関係で読み取ることができたようである。また、本文の語数に関しては例年同様であったため、じっくりと読み込み、丁寧に記述すればすべての問題において正答率を上げることができたはずである。Q3の正答率が一番低くなっているのは、内容は理解しているものの、日本語での説明に苦労した受験生が多かった結果である。
	Q2	53%	66%		
	Q3	34%	45%		
	Q4	38%	56%		

● 2022年度 中学入試 帰国生B方式 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	94%	100%	河川をテーマに地理分野と歴史分野を出題した。設問ごとの単位では地理、歴史が明確に分かれており、基本的な知識の習得を前提に正誤文の判定などを出題した。	全体を通して高い正答率が並んだ。問5(1)は、『漢書』地理志、『後漢書』東夷伝、『魏志』倭人伝にそれぞれ何が書かれていたかを理解しておかないと厳しい。ただし、ここを無理に正解しなくても他でしっかりと正解しておけば申し分ない。
	問2	47%	56%		
	問3	66%	75%		
	問4	50%	59%		
	問5 (1)	16%	13%		
	(2)	85%	94%		
	問6	50%	54%		
	問7	88%	99%		
	問8 (1)	55%	63%		
	(2)	77%	91%		
	問9 (1)	53%	61%		
	(2)	80%	80%		
問10	80%	86%			
2	問1 (1)	92%	95%	明治時代以降の条約をテーマに歴史分野と公民分野の出題をおこなった。歴史分野では並べ替えを出題し、知識を結びつけられているかを確認した。	全体を通して予想よりも高い正答率が並んだ。意外だったのは問6(1)の正答率。予想よりもかなり低い結果となった。問8、問9は聞いたことはあるが、やや雑に知識が入りやすい部分ではあるので注意をしておきたい内容。
	(2)	76%	88%		
	問2	73%	80%		
	問3	65%	79%		
	問4	70%	78%		
	問5	48%	55%		
	問6 (1)	29%	36%		
	(2)	80%	88%		
	(3)	94%	100%		
	問7	69%	66%		
	問8	50%	50%		
	問9	38%	45%		
	問10	34%	45%		
問11	61%	68%			

● 2022年度 中学入試 帰国生B方式 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	73%	83%	タンポポ、アブラナというありふれた植物(問1～問4)と、観察技術(問7)に関する知識問題のほか、外来種の性質がいかに生息域を広げているのに役立っているのかを考察する問題(問5)、測定結果を数理的に解釈する問題(問6、問8)のように、見慣れた問題のみならず、目の前の事実から考察を深められるかを求めた。	生物分野では、個々の生物の性質をどこまで網羅的に把握できるかは受験生の間で差がつきやすい。正答率の高い問1であっても点差がついている。また、問7の顕微鏡観察方法をはじめ、問3のタンポポのおしべ、めしべのように理解で盲点になっているところがみられた。また、知る人も多い外来種のセイヨウタンポポが在来種を駆逐している事実から、問5のようにその理由まで想像をする科学的態度をぜひ持っていていただきたい。
	問2	82%	86%		
	問3	28%	31%		
	問4	41%	45%		
	問5	34%	30%		
	問6	50%	58%		
	問7	35%	48%		
	問8	10%	15%		
2	問1	56%	58%	空気中に含まれる水蒸気のと湿度及び露点の関係について問うている。また、地球表面での水の循環について、与えられた数値から推定できるかを見る問題である。	湿度を求める計算と露点の関係についてはよくできていた。また、水蒸気が凝結して水滴になる現象については、しっかり押さえておきたい。地球表面での水の循環については陸上の量と海上の量の違いを把握することが正解の近道である。
	問2	69%	71%		
	問3	80%	89%		
	問4 X、Y	66%	73%		
	問5	73%	84%		
	問6	34%	45%		
3	問1	50%	56%	銅の酸化と還元につまわる知識と計算力を問うた。文章を読み取る力や、グラフの意図を読み取る力、それを関連づけて理解する力が必要であった。	短い時間の中で、文章がやや長く、情報量も多かったため、情報を読み取り、整理していくことが難しかったように感じる。質量保存の法則を用いた計算や、比の計算、過不足のある反応の計算など、頻出問題でありながら、読み取る力の部分で差がついた問題が多かった。
	問2	24%	26%		
	問3	94%	96%		
	問4	53%	70%		
	問5	30%	35%		
	問6	30%	43%		
	問7	15%	21%		
4	問1	91%	95%	水平方向に投げられた小球の運動を、表中のデータを用いて考察する問題である。このデータの規則性を素早く見つけられるかがポイントになる。見慣れない問題でも対応することができかねるかとした。	想定しているよりもどの問題もよくできている。規則性を見つけられることができれば難しくはないが、時間的な制約がある中で正答率が高かったのは立派である。
	問2	94%	98%		
	問3	78%	90%		
	問4 (1)	84%	94%		
	(2)	85%	96%		
	問5	75%	86%		

● 2022年度 中学入試 グローバル方式 英語 設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第2回入試と合わせて掲載(P.26)

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	26%	47%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、不規則変化動詞の知識も必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化には注意が必要である。
	問2	57%	47%		
	問3	57%	67%		
	問4	23%	20%		
	問5	14%	20%		
	問6	57%	47%		
	問7	91%	100%		
	問8	46%	53%		
	問9	31%	33%		
	問10	74%	87%		
2	問1	94%	100%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも5語を並べ替えた上で、2番目と4番目の組み合わせを解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。群動詞、熟語などの知識も定着しているようであり、特に合格者の正答率は、ほとんどの設問において100%となっている。合格者に対しては、今後の活躍が大いに期待される。
	問2	100%	100%		
	問3	91%	100%		
	問4	94%	100%		
	問5	89%	100%		
	問6	100%	100%		
	問7	94%	100%		
	問8	91%	93%		
	問9	86%	87%		
	問10	100%	100%		
3		98%	100%	メール形式の長文問題である。筆者と相手の人物との関連や起こった出来事などを時系列順に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、特にだれがいつどこでどうしたかをきちんと掌握する必要がある。解答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうかを解答へのカギとなっている。	正答率は例年通り比較的高い結果となった。不正解の選択肢についても、紛らわしいものは含まれていない。起こった出来事をきちんと把握できず、正答まで到達できなかった生徒が若干見受けられたが、英検準2級レベルとしてはほぼ適切な出題であったと思われる。
4	問1 ①	37%	47%	論説文を、いかに筋道立てて読み進めて行けるかを問う問題。そのために、話のポイントとなる語を空欄にすることで、その前後の内容からいかに正確に空欄の語を推測できるかを問うた。	正答率から見ると、合否を分けるのはやはり語彙であることが分かる。特に問1①や④のような少し語彙レベルが高めの単語や熟語を知っているか否かが大きなポイントとなった。
	②	83%	87%		
	③	80%	73%		
	④	69%	87%		
	⑤	97%	100%		
	⑥	74%	87%		
	問2	69%	80%		
5	問1	46%	44%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は長文全体の流れの中での一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳してるかにポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	準2級レベルの問題である。内容的に小学生には馴染みの薄いものであるかと思われるが、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のもので、必要のないところを訳すなどのものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している感じが感じられた。
	問2 (1)	89%	87%		
	(2)	83%	93%		
	(3)	94%	93%		
	(4)	91%	100%		



 **東京都市大学 附属中学校・高等学校**
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1
TEL 03-3415-0104 FAX 03-3749-0265
<https://www.tcu-jsh.ed.jp/>
メールでのお問い合わせは info@tcu-jsh.ed.jp